

科目名	OA実習				
担当教員	桑原 峻介	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	電子メールでの文章作成、表計算、プレゼンテーションソフトについて学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	1. Microsoft Wordの基本操作(罫線、図形描画など) 2. Microsoft Excelの基本操作(グラフ、関数など) 3. Microsoft Power Pointの基本操作(アニメーションなど) 4. Microsoft Word、Excel、Power Pointの総合的な利用(データの分析から、報告書の作成、プレゼンテーションまで)				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	インプレス書籍編集部『できるWord Windows 版』インプレス。金子正光、他『文系のための情報処理入門』朝倉書店。野々山隆幸、他『情報処理概論』実教出版社。室淳子、他『Excelでやさしく学ぶ統計解析』東京図書。若山芳三郎『学生のためのWindows』東京電機大学出版社。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」	ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。			
2	さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」	「ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。			
3	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」	表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。			
4	「関数の利用」	表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。			
5	「グラフの作成」	データをもとにしたグラフを作成する技術を身に付ける。			
6	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」	表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。			
7	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」	プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。			
8	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」	資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。13「プレゼンテーション実習」実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。			
9	「総合演習」	本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。			
10	「総合演習」	本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。			
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験90%、学習意欲10% 後期:筆記試験90%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	授業終了時に示す課題について、次回授業までに作成しておくこと。			
実務経験教員の経歴	システムエンジニアとして開発現場に6年間関わっていた				

科目名	就職実務 I				
担当教員	深井 美年	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	<p>昨今、若者のコミュニケーション能力が低くなっています。 挨拶も満足にできないことも少なくない。 本講義では就職してから一番必要なコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>接遇・電話対応の基本を通して、人と接するコミュニケーションのスキルを学ぶ。 上記スキルを実際に活かせるような実技を行い、身に付ける。 サーティファイ主催コミュニケーション検定取得。</p>				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	コミュニケーション検定 公式ガイドブック&問題集(サーティファイ)				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	コミュニケーション・セオリー(理論)	指定教科書P2～P30			
3	コミュニケーション・プラクティス(実践)	指定教科書P36～P78			
4	問題演習	指定教科書P84～P149			
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	<p>後期:筆記試験70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>	<p>翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。</p>			
実務経験教員の経歴	営業、ツアーコンダクター、クルーズスタッフなど旅行業界に25年係っていた				

科目名		教育実習事前指導 I			
担当教員	中村 昭子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。				
学習目標(到達目標)	本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書『教育実習(初等)の手引き』。参考文献 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。花篤貴、他『造形表現実技編』三晃書房				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	講義概要 教育実習の意味	実習に向けての自己課題			
2	子ども理解と援助・支援技術の理解	教育環境と子どもの実態			
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解				
4	指導案	記入に必要な事項			
5	子どもの活動と教師の援助、支援				
6	指導案	一枚の中の関連			
7	指導案の作成	題材、活動内容等の記入			
8	指導案の作成	援助、支援等の工夫			
9	模擬保育	授業の実施 その1			
10	模擬保育	授業の実施 その2			
11	模擬保育	授業の実施 その3			
12	子ども理解	実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1			
13	子ども理解	実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2			
14	まとめ	目指す授業と自己課題の再設定			
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		大学で習得した知識や理論を振り返り、実習について必要な知識を得られるようにする。			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務				

科目名	保育実習指導 I				
担当教員	片山 いおり	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育実習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。1. 保育実習の意義・目的を理解する。2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。4. 保育技術を習得する。5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)				
学習目標 (到達目標)	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。駒井美智子『施設実習ガイド—保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	『保育実習の学習ガイド』	保育実習の意義・目的を理解する。実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。			
2	保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。	実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする			
3	施設実習を行う施設の機能、社会的役割	一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。			
4	保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。	一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。			
5	施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。	保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。			
6	実際に指導案を作成する。	複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。			
7	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。	手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)			
8	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。	手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)			
9	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)			
10	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)			
11	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)			
12	模擬保育演習を振り返り	子どもの発達や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)			
13	模擬保育演習を振り返り	子どもの発達や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)			
14	これまでの学修を総点検	いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備しておく。			
15	実習直前に向けて	実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務				

科目名		カリキュラム論			
担当教員	木村 直子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。				
学習目標 (到達目標)	「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書 神長美津子、他『乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論』光生館。参考文献 川邊貴子『教育課程 保育課程論』東京書籍。汐見稔幸・無藤 隆監修『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房。文部科学省『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館。幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	幼児教育における計画の重要性を理解する	「カリキュラム」、「教育課程」の意味することを理解する。(第1章)			
2	幼児期の学習の特質を理解する	遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。(第2章・第3章)			
3	経験カリキュラムと系統的カリキュラム	カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。(第1章)			
4	稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解	幼・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。(第4章)			
5	教育課程の編成の実際	教育課程編成の手順、形式、記入内容について事例を通して理解する。(第7章)			
6	教育課程と指導計画の関係	指導計画の必要性。教育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する。(第7章)			
7	幼稚園における長期指導計画	幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。(第4章)			
8	幼稚園における短期指導計画	幼稚園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。(第4章)			
9	指導計画と保育実践	これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。			
10	保育の記録と反省(第8章)	評価・保育における記録の重要性と記録の仕方、計画—実践—反省—計画の関係性を、事例を通して学ぶ。			
11	保育の評価と計画の改善、カリキュラム・マネジメントの意義と実際	長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するか、事例を通して学ぶ。カリキュラム・マネジメントの意義と幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のカリキュラム・マネジメントの実際を学ぶ。(第8章・第9章)			
12	教材研究	幼児教育の目的を達成するために適切な教材の在り方、選定の方法などを学び、さまざまな場面における教材について考える。			
13	保育所・幼保連携型認定こども園の保育の計画	保育所及び幼保連携型認定こども園の保育の計画を学び、幼稚園の保育の計画との違いをとらえる。(第5章・第6章)			
14	小学校との連携	指導要録等、幼児施設と小学校の連携に関する作成の在り方や方法を事例を通して学ぶ。(第11章)			
15	保育の計画の展望	社会の保育ニーズ、保育・教育制度の変化と保育の計画の内容との関連、他国の保育の計画の考え方を考察する。(第10章)			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書をあらかじめ読み込んでおく			
実務経験教員の経歴	幼稚園勤務21年				

科目名		憲法			
担当教員	大久保 友		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	憲法第25条は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しているが、この実現のためには、様々な社会保障、社会福祉の諸制度やそれに関わる行政機関への手続きが必要となる。社会福祉の専門家として、憲法、民法、行政法(特に生活保護法や児童福祉法など社会福祉に密接に関連する法律)の基礎知識を学ぶ。				
学習目標(到達目標)	社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法(中でも親族法、相続法)、行政法については、条文や判例の検討なども含めて研究する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。参考文献『図解による法律用語辞典』自由国民社。丹羽重博『やさしい法学・第3版』法学書院。伊藤正己『憲法入門・第4補訂版』有斐閣。山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	法の本質と目的(テキスト1頁～) 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。		社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。		
2	法源(テキスト7頁～) 成文法と不文法という法の存在形式(法源)を学修する。		法の存在形式である法源は、成文法・不文法・慣習法・判例法・条理法があることを理解する。		
3	慣習法と判例法(テキスト10頁～) 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握する。		慣習法とは、何か、判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。		
4	法の体系(テキスト14頁～) 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。		憲法・法律・政令・省令・規則のほか、地方の条例・規則が存在し、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。		
5	法の効力(テキスト18頁～) 法の妥当性と実効性を考察する。		法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲、法律不遡及の原則などについて理解する。		
6	法の適用と解釈(テキスト21頁～) 法の解釈方法の違いを見きわめる。		法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをい、適用にあたり様々な法の解釈が行われる。		
7	憲法の基礎(テキスト26頁～) 憲法の意味とその基本原理を学修する。		憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。		
8	立法と国会(テキスト39頁～) 国会の権限を知る。		国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。		
9	行政と内閣(テキスト50頁～) 内閣の機能を考える。		行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。		
10	司法と裁判所(テキスト60頁～) 裁判所の役割をつかむ。		司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。		
11	人権の概念とその限界(テキスト65頁～) 基本的人権の思想史とその種類を学修する		新しい人権(プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権)を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下での平等について理解する。		
12	自由権(テキスト83頁～) 自由権の種類とその内容を研究する。		精神的自由(思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由)について理解する		
13	社会権(テキスト96頁) 社会権の種類とその存在価値を検討する。		プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説、教育を受ける権利、労働基本権について理解する。		
14	受益権(テキスト108頁～) 受益権の種類とその事例を考察する		請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。		
15	参政権(テキスト112頁～) 参政権の種類とその意義を理解する。		参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。		
16					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書を中心に読み込んでおく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		公務員勤務 専門学校勤務 10年			

科目名	乳幼児保育 I				
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。				
学習目標 (到達目標)	乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A。参考文献 厚生労働省『保育所保育指針 平成 20年告示』プレーベル館。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	○日本の子育て環境と乳児保育の実態		母親の就労と子育て支援、待機児童の実態等を理解する。		
2	○乳児保育の発展の経緯と政策の変遷		福祉法制定から現代にいたる乳児保育の政策の変遷と課題について理解する。		
3	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね6か月未満>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(首が据わる、寝返り、笑い声の獲得等)		
4	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね6か月から1歳3か月>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(はいはい、人見知り、つかまり立ち、一人立ち、歩行、いたずら等)		
5	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね1歳3か月から2歳未満>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(歩行の確立、言葉の獲得、排泄、食事等)		
6	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね2歳>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(自我の確立、言語認識の発達等)		
7	○乳児の生活と健康		・乳幼児期における感染症とその対策について理解する。		
8	○乳児の生活と健康		・乳幼児期の起きやすい事故とその対策と、子どもを健康に育てるための留意点を学ぶ。		
9	○乳児の基本的生活と健康		科目終了試験学修のポイント2) ・だっこ、おんぶ、おむつ替えなどの援助を通して、情緒の育ちを理解する。		
10	○乳児期の基本的生活		・乳児期の生活リズム(授乳・食事・睡)について理解する。		
11	○乳児の遊びと対人関係・言語・遊びの発達過程と対人関係について理解する。		〈科目終了試験学修のポイント3〉		
12	○乳児の遊びと対人関係		・友達関係の広がりや援助について理解する。 (科目終了試験学修のポイント3)		
13	○保育計画の立て方・		計画の意義、立案、記録の取り方、評価について学ぶ。		
14	○乳児保育における現代的な課題		科目終了試験学修のポイント4) ・子育て支援と保育所の役割について理解する。		
15	○乳児保育の担当者として求められる役割と資質		〈科目終了試験学修のポイント5・6〉発達や理論、技術の基本的理解・育児の孤立化と子育て不安への対応・子育て家庭への情報提供 等を理解する。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		テキストを読み込む。			
実務経験教員の経歴	幼稚園勤務21年				

科目名		音楽表現論(2単位)			
担当教員	大藪 宏子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	<p>本授業では、領域「表現」のなかの「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。</p> <p>①乳幼児の音や音楽による表現の姿や、その発達を理解する。 ②音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>				
学習目標(到達目標)	<p>1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2) 音楽を生成する過程について理解している。 3) 乳幼児の素朴な音遊びを通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7) 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>秋田喜代美・三宅茂夫監修「子どもの姿からはじめる領域・表現」みらい(2021年4月) 文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年告示)厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(平成29年告示)</p>				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	領域「表現」のねらい及び内容 オリエンテーション(授業概要)		保育における「表現」とは何か		
2	乳幼児の表現の発達①		子どもの発達と表現の捉え方について学ぶ。		
3	乳幼児の表現の発達②		リズムカルな身体を創る。(リズム遊び・リトミックの理解)		
4	乳幼児の表現の発達③		小学校低学年「音楽」への学びの連続性		
5	環境との対話①		自然環境のなかの音に対する気づき自然の中の、風の音、川の流れる音、鳥のさえずりなどに気付く。		
6	環境との対話②		自らの感性を開くことによる豊かな感受性の醸成自分に向き合って五感を研ぎ澄まして、自分の周りの音を捉える。		
7	音楽遊び①		身の回りの素材による音遊び自分の周りの素材を使って、様々な音を創り出して楽しむ。		
8	音楽遊び②		自らの声や楽器による音楽遊び		
9	音楽による豊かな表現①		表情豊かな歌唱表現子どもの歌の特徴を理解する		
10	音楽による豊かな表現②		合唱や合奏による協同性を伴う表現の楽しさ 一人で歌う場合と皆と一緒に歌う場合のそれぞれの楽しさを味わう		
11	音楽遊びの「学び」の視点①		簡易な楽器によるリズム遊びを考える遊びと一体となったリズム遊びや歌(わらべ歌や手遊び歌など)を理解し、楽しむ		
12	音楽遊びの「学び」の視点②		わらべ歌や手遊び歌を考える		
13	イメージを音に表現する①		自らの心情を声や楽器により表現する自分で詩を作り、それを歌ったり楽器で表現して楽しむ。		
14	イメージを音に表現する②		言葉のイントネーションやリズムを生かして簡易な曲を創作する詩を朗読し、歌い、感じる。		
15	ICTを活用した音楽表現活動とまとめ録音・録画機器を活用した活動について話し合う。 学んだことの全体を整理し、まとめる。		録音・録画機器を活用した活動について話し合う。 学んだことの全体を整理し、まとめる。		
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>					
実務経験教員の経歴					
リトミック教室多数開講 講師 12年					

科目名 指導法「音楽表現」基礎演習 I (2単位)					
担当教員	折笠 伊佐美、 大藪 宏子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	<p>「こどもと音楽」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い(ピアノ伴奏をしながら歌う)等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。</p> <p>「こどもと音楽」で理論・実技等の基礎を学んだ後、本科目を履修することが望ましい。</p> <p>なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験がなされる。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>●A群(ピアノ初心者) ●B群(ピアノ経験者)</p> <p>『標準バイエルピアノ教則本』より 『標準バイエルピアノ教則本』より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・55番 ハ長調 4/4拍子 ・59番 ハ長調 3/8拍子 ・66番 ハ長調 6/8拍子 ・76番 ト長調 4/4拍子 ・78番 ト長調 6/8拍子 ・102番 ヘ長調 4/4拍子 ・104番 ヘ長調 3/8拍子 ・80番 ニ長調 3/4拍子 ・88番 ト長調 4/4拍子 ・93番 イ短調 6/8拍子 ・96番 ヘ長調 3/8拍子 ・100番 ヘ長調 3/8拍子 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北入路書房。</p> <p>楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。</p> <p>岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著『これだけは歌って弾こう 子どもの歌 厳選50曲』共同音楽出版社。</p> <p>小林美実監修『こどものうた100』チャイルド本社。</p> <p>初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示小学校学習指導要領 準拠』音楽之友社。</p>				
授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
2	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
3	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
4	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
5	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
6	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
7	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		『標準バイエルピアノ教則本』より各個人練習、		
8	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の9曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
9	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の10曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
10	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の11曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
11	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の12曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
12	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の13曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
13	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の14曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
14	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン		科目終了試験の15曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習		
15	スクーリング修了試験の準備、授業のまとめ。				
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>ピアノ個人練習 課題曲の譜読み</p>		
実務経験教員の経歴	短期大学幼児教育科 非常勤講師		5年	リトミック教室多数開講	講師 12年

科目名		造形表現論(2単位)			
担当教員	益子 康平		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。 ② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。				
学習目標(到達目標)	1) 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2) 造形を生成する過程について理解している。 3) 乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4) 様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 5) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8) 様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	【教科書】横英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 【参考文献】 「幼稚園教育要領」平成29年告示文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成30年3月文部科学省 「保育所保育指針解説」平成30年3月厚生労働省編				
		授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考		
1	はじめに～1章 造形表現の意義		教科書『保育をひらく造形表現』pp.1-14を読み理解する。 ・オリエンテーション(授業概要) ・授業で使用する教科書や道具や素材などの確認 ・映像資料を利用した子どもの造形表現の鑑賞		
2	2章 表現を育む人になる		教科書『保育をひらく造形表現』pp.15-22を読み理解する。 造形表現の基礎(講義+演習) 教科書『保育をひらく造形表現』【1.点と線を遊ぶ～3色の探検】pp.33-37を読む。 ・実際に物を描いてみる(デッサンの考え方の実践)		
3	2章 表現を育む人になる		教科書『保育をひらく造形表現』3.心をひらく～5.子どもの心に還る】pp.22-30を読み理解する。 子どもの造形表現の研究Ⅰ(講義+演習) ・モダンテクニックについて(1) ・絵の具を使った製作の種類と説明		
4	6章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする		教科書『保育をひらく造形表現』pp.125-131から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組む 子どもの造形表現の研究Ⅱ(演習) ・モダンテクニックについて(2) ・絵の具を使った製作の実践		
5	6章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする		教科書『保育をひらく造形表現』pp.132-133から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組む		
6	6章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする		教科書『保育をひらく造形表現』pp.134-137から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組む。		
7	「6章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする」		教科書『保育をひらく造形表現』pp.138-140から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組む。 教科書『保育をひらく造形表現』第4章「子どもの造形表現の発達」を読む。 ・造形表現の発達についての説明と、映像資料の鑑賞		
8	4章 子どもの造形表現の発達		教科書『保育をひらく造形表現』pp.63-71を読み理解する。 オンライン美術館(講義) ・映像資料を利用した作品鑑賞 ・作家の作品から読み解く、子どもの造形表現の理解と関連性について		
9	4章 子どもの造形表現の発達		教科書『保育をひらく造形表現』pp.71-75を読み理解する。 子どもの造形表現の研究Ⅲ(講義+演習) ・ポップアップカードの種類と説明 ・ポップアップカードの製作の実践		
10	4章 子どもの造形表現の発達		教科書『保育をひらく造形表現』pp.75-82を読み理解する 素材研究Ⅰ(講義+演習) ・造形活動で使用する、色々な素材の説明や道具の使用法の解説 ・廃材を利用した音の出るおもちゃの説明と鑑賞		
11	3章 造形を楽しむための造形		教科書『保育をひらく造形表現』pp.38-47から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組む。 素材研究Ⅱ(演習) ・廃材を利用した音の出るおもちゃの製作の実践 ・「〇シスター」の紹介		
12	3章 造形を楽しむための造形		教科書『保育をひらく造形表現』pp.48-59から1つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。		
13	5章 造形表現指導の実際		教科書『保育をひらく造形表現』pp.83-91を読み理解する。 教科書『保育をひらく造形表現』より(講義+演習) ・主にp.105「3)評価」、p.107「6.模擬保育」の項の説明 ・指導計画の作成		
14	5章 造形表現指導の実際		教科書『保育をひらく造形表現』pp.92-100を読み理解する。		
15	5章 造形表現指導の実際		教科書『保育をひらく造形表現』pp.101-112を読み理解する。		
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		保育雑誌等から保育に必要な図画工作技術をあらかじめ考えておく。			
実務経験教員の経歴		学校教育機関勤務 8年			

科目名		情報リテラシーと処理技術			
担当教員	片所 大輔		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	文献や資料の十分な収集、定性的又は定量的なデータの統計解析は、新たな福祉ニーズの発見や、すでに提供されているサービスの適切さなどを評価するために重要な手段である。				
学習目標 (到達目標)	初心者を対象にインターネットでの情報収集、電子メールでの文書作成や、表計算での定量的な処理などを学び、演習を主体に学修していく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。インプレス書籍編集部『できるWord Windows 版』インプレス。 金子正光、他『文系のための情報処理入門』朝倉書店。野々山隆幸、他『情報処理概論』実教出版社。 室淳子、他『Excel でやさしく学ぶ統計解析』東京図書。若山芳三郎『学生のためのWindows』東京電機大学出版社。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」		コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。		
2	「インターネットの歴史、サービスについて」		インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。		
3	「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」		情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。		
4	「著作権について」		文化庁のWeb 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。		
5	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」		ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		
6	「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」		ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。		
7	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」		表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		
8	「関数の利用」		表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。		
9	「グラフの作成」		データをもとにしたグラフを作成する技術を身につける。		
10	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」		表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。		
11	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」		プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。		
12	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」		資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。		
13	「プレゼンテーション実習」		実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。		
14	「総合演習」		本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。		
15	「総合演習」		本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		レポート題材の文献収集			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	システムエンジニアとして開発現場に6年間関わっていた				

上越公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

英語コミュニケーション(2単位)					
科目名	英語コミュニケーション(2単位)				
担当教員	神戸 邦子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	これからの国際社会に対応していくためには世界的公用言語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの 暗記を中心とした受験英語や学習とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。				
学習目標(到達目標)	表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすため日本語とは異なる英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ピーター・セラフィン、根間弘海『Twenty American Heroes』三修社、根原寿『マーティン＝L＝キング』清水書院。コレット・スコット・キング、根原寿、他『キング牧師の言葉』日本基督教団出版局。辻内鏡人、他『キング牧師』岩波ジュニア新書。				
授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	[レポート設題の求める解答記述の作成に際して]【設題1】8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。	学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを確認すること。			
2	[レポート設題の求める解答記述の作成に際して]【設題1】8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。	英文テキストの「要約」記述に際しては、テキストp.72の注を活用し、また以下のキーワードの訳に注意すること。			
3	レポート設題の学修のポイント意見の論述【その1】	アメリカの奴隷制は、南部の州を中心として広がっていった。同じアメリカ国内でありながら、なぜ南部や北部の州では奴隷制がなく、南部諸州に集中して施行されたのか、それら南部の州の社会的特徴を調べ、理由を考へる。またアメリカの歴史における人種差別の推移(イギリス植民地からの独立と奴隷制施行一南北戦争一奴隷解放一南部の州での人種分離法制定と黒人の人権擁護一人人を中心とする公民権運動の各第一公民権法の成立)を調べて理解すること。			
4	レポート設題の学修のポイント意見の論述【その2】テキストp.27、28～30行を参照。	キング牧師は、インド独立運動の中心人物ガンジーに深く傾倒し、彼の「非暴力・不服従」に自らも、自身の公民権運動を推進した。またキリスト教の「愛」(アガペ)と呼ばれる種類の愛、自己犠牲の愛を説くことにより、黒人達の精神的支えとなり、運動をまとめることになった。これらのキング牧師の思想、運動遂行の方法などを調べ、具体的に説明すること。			
5	レポート設題の学修のポイント意見の論述【その3】	キングの努力により公民権法が成立し、アメリカにおける人種差別は法律上、形式上は消滅した。しかし、オバマが黒人初の大統領となった今でも、社会の深層や人間の心にはいまだに人種差別は残っている。これを解消するにはどうしたらよいのか、今後の課題は何が、など、学んだこと、理解したことを含めて、意見をまとめること。			
6	[科目終了試験学修のポイント1]について【その1】	英文テキストの要約に際しては、テキストpp.69-70の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。childish=子供っぽい、childlike=子供らしい、New England=ニューイングランド(アメリカ東部カナダ 寄りの方)、genetically-altered=遺伝子操作された、running amok=荒れ狂い走り回る、Jew=ユダヤ人			
7	[科目終了試験学修のポイント1]について【その2】	スティーヴの生い立ち、家庭環境などが、映画の内容にどのように反映されているか、彼の制作する映画の個性や特徴を 中心に調べるとよい。また、スティーヴは、ふたつの異なる傾向(ひとつは商業性の強いもの、もうひとつは社会的問題を提起するもの)の映画を制作しているが、テキストに出てくる映画のタイトルの中からあるは、これまでのスティーヴの活躍作の中から、実際に鑑賞してみる。			
8	[科目終了試験学修のポイント2]について【その1】	英文テキストの要約に際しては、テキストpp.71-72の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。role model=役割モデル(誰もがあがこい、まねをしたがる存在)、Colonel Tom Parker=「美人」Coolidge(女優)であるわけではなく、アメリカでは熟年の人柄の長い男性をこのように呼んで敬愛の情を表す。			
9	[科目終了試験学修のポイント2]について【その2】	エルヴィス・プレスリーがロックンロールを生み出し人気を博した1950～1960年代は、第二次世界大戦終結後、アメリカが経済的繁栄を享受し物質的な豊かさが国民に与えられた時代であった。一方で都市部では貧困の蔓延や社会不安が起った。社会にストレスを感じ、そのはけ口をさがしていた。また当時は黒人を中心とする公民権運動が盛んな時期でもあった。これらの社会背景をふまえて、プレスリーの音楽の意義について考える。			
10	[科目終了試験学修のポイント3]について【その1】	英文テキストの要約に際しては、テキストpp.73-74の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。rejected for military service=兵役を拒否されて(当時アメリカでは兵役拒否が流行)、covering=隠蔽する、best-innovation=最もすぐれたもの、babe=子供、big game hunting=(ライや鹿などの)大きな獲物をねらう狩り、prose=散文(対義語は「韻文」)、code=規律/規範、measure=(人間や物事をはかる)評価の基準			
11	科目終了試験学修のポイント3]について【その2】	キングウェイは、第一次、第二次世界大戦を始めとして、ヨーロッパの大きな戦争のほとんどを自身の目で見て、その体験を心に刻み、それをもとにして小説を執筆した。また、当時物質文明を誇り、自動車やテレビ、大型冷蔵庫などの大量生産の工業製品がもたらしたようにアメリカ社会を、国境から海外にまで広げることが、戦争によって人間の価値観を打ち砕かれた「失われた世代(Lost Generation)」を代表する。彼の1作を選び、そのテキストにあるキングウェイの文 体の特徴(p.31、65～69行)を表現するものよ。			
12	[科目終了試験学修のポイント4]について【その1】	英文テキストの要約に際しては、テキストp.80の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。as common as～と同じほど普通(一般的、当たり前の)、available=使用可能(期間)、teaching tool=教材、keep track of～を追跡する、natural=生まれつきの/生まれの、SAT(Scholastic Assessment Aptitude) Test、on paper=書類上は、matter=重要=重大なこと、power=権力			
13	[科目終了試験学修のポイント4]について【その2】	パソコンを中心とする今日のIT技術の発展は、ゲイツの存在なしでは達成されなかつたと言っている。我々は現在、その恩恵に浴し、便利な日常生活を送っている。しかし、この状況を無批判に受け入れて、情報の流れに押し流されていくものだろうか、インターネットを始め、今日の身の回りにある技術の付加価値、マナーを高く考え、ネット依存や情報 漏洩の問題にも考察を深めるとよい。なお、ゲイツは現在、アメリカなどと異なりチャリティ事業に専念している。			
14	[科目終了試験学修のポイント5]について【その1】	英文テキストの要約に際しては、テキストpp.82-83の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。social reformer=社会の改革者、leader(仕事)を導く、(仕事)につく、article=記事、national=全国的な、piece=作品、marital status=婚姻上の立場(既婚か未婚か)、traditional family values=男性が働き、女性が家庭を守るという伝統的な家 族の価値観、disarm(兵器)解除させるように相手の心を弱くさせる、相対する、humanize=人間的にする、sex=性別			
15	[科目終了試験学修のポイント5]について【その2】	自由と平等を標榜するアメリカも、社会構成の基本は「男社会」であった。いまもその名残はいくつかの場面にあるもの。女性解放運動、フェミニズム運動を経て、今では相当程度女性の社会進出が達成されている。その際には、グロリア・スタインのような社会活動家の努力があった。女性たちが今当然のように行っている職場や学校、家庭での、男性と同等のさまざまな権利を享受する権利は、彼女たちは闘って得たものである。人権平等を標榜するための公民権運動から、性差別 解消のための女性解放運動が生じた歴史の流れを調べ、女性の社会進出を阻んでいる「ガラスの天井(glass ceiling)」についても考察する。			
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%			レポート設題と科目終了試験学修のポイントを確認すること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					
中学校勤務 20年					

科目名		保育原理			
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあつては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか、目的をしっかりと持つことが重要である。				
学習目標(到達目標)	保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 佐藤康富『[新版]新しい保育原理』大学図書出版。参考文献 厚生労働省『保育所保育指針 平成29年告示』。文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』。柴崎正行『保育方法の探求』建帛社。待井和江『現代の保育学④ 保育原理』ミネルヴァ書房。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シラバスの確認 学修内容の1～15及びレポート設題		科目終了試験学修のポイントを確認する。「保育原理」の全体像を理解する。		
2	保育とは 自分自身が考える保育とは何か？		2ノートにまとめてみる。		
3	保育の歴史について学ぶ		(1) 西洋近代の保育思想 西洋近代保育思想家やその思想をノートにまとめる。		
4	保育の歴史について学ぶ		(2) 保育施設のはじまり 保育施設の変遷についてノートにまとめる。		
5	保育所・幼稚園・認定こども園の歩み		保育所・幼稚園・認定こども園を表に書いてまとめる。		
6	乳幼児期の発達と子どもの生活		乳幼児の発達過程について。乳幼児期の発達と子どもの生活について整理し、まとめる。		
7	保育の計画及び評価 保育計画		指導計画とは何か？ポイントを整理する。		
8	これからの保育者①これからの保育者		保育者の役割について考えてみる。保育者の機能・役割について大切なポイントをまとめる。		
9	これからの保育者②バランスのとれた管理と支援		保育者の課題について考えてみる。管理と支援についてまとめる。		
10	子育て支援①子育て支援が求められるのはなぜか		子育て支援について考える。		
11	子育て支援②地域の子育て支援の役割		地域の子育て支援には何かがあるのか、子育てと地域の関係を整理する。		
12	子育て支援③保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援		各保育施設における子育て支援の特徴を整理し、まとめる。		
13	これからの保育の課題①多様な保育ニーズに対する国の施策②		延長保育・一時保育 保育における社会情勢を考える。保育の課題を整理し、まとめる。		
14	保育形態について調べまとめる		統合保育、自由保育、縦割り保育、併設保育の保育活動		
15	子どもを取り巻く環境		現代社会での子どもを取り巻く環境についての問題点を取り上げ、その解決について考える。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込んでおく。		
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務21年			

科目名		発達心理学			
担当教員	益子 康平		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達には、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期などの各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。				
学習目標(到達目標)	本科目では、発達概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、また、発達における環境の影響として学習や動機づけの理論について学ぶ。こうした学びによって、子どもの発達過程をふまえて、主体的学習を支える援助のあり方について、理論的に説明できるようにすることを目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』建帛社。 参考文献 内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床1 ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床2 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床3 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	子どもの発達を理解することの意義	教科書pp.1-9を通読し、発達の概念、発達を規定する要因、発達のメカニズムなどについて理解する。			
2	子ども観と保育観の変遷	教科書pp.10-19を通読し、子ども観や保育観の変遷、それに応じた制度の変化などについて理解する。			
3	胎児期・新生児期の発達の特徴	教科書pp.20-29を通読し、胎児期・新生児期の発達の特徴と問題点について理解する。			
4	乳幼児期の発達の特徴	教科書pp.30-40を通読し、乳幼児期の発達の特徴と問題点について理解する。			
5	児童期の発達の特徴	教科書pp.42-49を通読し、児童期の発達の特徴と問題点について理解する。			
6	青年期の発達の特徴	教科書pp.51-56を通読し、青年期の発達の特徴と問題点について理解する。特に、エリクソンのアイデンティティの概念について押さえておく。			
7	身体・運動の発達	教科書pp.61-71を通読し、それぞれの発達段階の運動発達の様相などについて理解する。			
8	認知の発達	教科書pp.73-81を通読し、それぞれの発達段階の認知発達の様相などについて理解する。			
9	言語の発達	教科書pp.83-92を通読し、言語発達の様相について理解する。			
10	感情の発達	教科書 pp.93-102 を通読し、感情の発達の様相について理解する。			
11	気質・性格の発達	教科書pp.103-111 を通読し、気質・性格の基本的理論について理解する。			
12	学習理論	参考文献をもとに、学習理論について学ぶ。行動理論、認知理論について調べ、理解する。			
13	動機づけ	参考文献をもとに、外発的動機づけ・内発的動機づけ、自己決定理論、原因帰属について調べ、考察する。			
14	心身の発達をふまえた保育者の指導	教科書pp.113-122を通読し、発達のアセスメントの視点とその活用について理解する。			
15	心身の発達をふまえた集団作り	教科書pp.167-189を通読し、集団生活や仲間との遊びを通じた発達の重要性について理解する。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書をあらかじめ読み込み、専門用語を理解しておく。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		学校教育機関勤務 8年			

科目名		人間関係論			
担当教員	池本由香里	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ①子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 ②乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。				
学習目標 (到達目標)	1) 子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。 2) 人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。 3) 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 4) 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、友だちとの関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 5) 自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 7) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 8) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 秋田喜代美・三宅茂夫監修「子どもの姿からはじめる領域・人間関係」みらい(2022年3月) 文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年告示) 参考文献 厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(平成29年告示)				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	領域「人間関係」のねらい及び内容				
2	現代社会における人間関係の特徴とその背景				
3	乳幼児にとっての身近な人間関係				
4	人間関係の発達①乳児期の人間関係				
5	人間関係の発達②幼児期前期の人間関係				
6	人間関係の発達③幼児期後期の人間関係(保育者との関係)				
7	人間関係の発達④幼児期後期の人間関係(友だちとの関係)				
8	人と関わる力の育ち①遊びや生活を通して				
9	人と関わる力の育ち②他者との関係性と自立心				
10	人と関わる力の育ち③他者との関係性と協同性				
11	人と関わる力の育ち④他者との関係性と道徳性・規範意識				
12	乳幼児期の人間関係の広がり①家庭生活				
13	乳幼児期の人間関係の広がり②地域とのかかわり				
14	乳幼児期から学童期以降の人と関わる力の連続性				
15	まとめ				
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書をあらかじめ読み込み、専門用語を理解しておく。			
実務経験教員の経歴		保育所勤務10年 短期大学非常勤講師5年			

科目名	言葉とこどもの文化				
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 ②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 ③子どもにとっての児童文化財の意義を理解する。				
学習目標 (到達目標)	1)人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。 6)児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。 7)子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 秋田喜代美・三宅茂夫監修「子どもの姿からはじめる領域・言葉」みらい(2020年12月) 文部科学省『幼稚園教育要領』(平成29年告示) 参考文献 厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』(平成29年告示)				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	領域「言葉」のねらい及び内容		聞く・話す・読む・書く		
2	人間にとっての言葉の意義と機能		聞く・話す・読む・書く		
3	言葉の4つの側面		聞く・話す・読む・書く		
4	乳幼児期の言葉の発達①		誕生から始語まで		
5	乳幼児期の言葉の発達②		一語文から二語文へ		
6	乳幼児期の言葉の発達③		語彙の増加		
7	乳幼児期の言葉の発達④		複文・重文による多様な意思表現		
8	言葉遊び①		言葉の美しさ、楽しさへの気付き		
9	言葉遊び②		言葉の感覚を豊かにする実践		
10	言葉遊び③		様々な言葉遊びの保育への取り入れ方		
11	児童文化財①		乳幼児にとっての意義		
12	児童文化財②		種類や歴史、保育への取り入れ方		
13	児童文化財③		絵本についての理解と実践		
14	児童文化財④		紙芝居についての理解と実践		
15	ICTの活用について				
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込み、専門用語を理解しておく。		
実務経験教員の経歴			幼稚園勤務21年		

科目名						社会福祉論					
担当教員		岡 麻衣子			実務授業の有無		○				
対象学科		こども保育幼稚園科		対象学年		1年		開講時期		後期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		15	
授業概要、目的、授業の進め方		現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉 専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史(社会事業成立以前、社会事業成立 期、戦後)、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向 と今後の課題などについて学修する									
学習目標(到達目標)		社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規。参考文献 今村理一『新しい時代の社会福祉サービス論』ミネルヴァ書房。京極高宣『改訂社会福祉学とは何か』全国社会福祉協議会。ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房。									
		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1	社会福祉の概念と枠組み	新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』P2									
2	社会福祉と関連諸施策	社会福祉の思想と倫理 所得維持、教育、雇用、住宅などの関連諸施策を含めた福祉倫理を学ぶ									
3	日本における社会福祉の史的展開：わが国の近代、現代の社会福祉	米における社会福祉の史的展開：イギリスなどの社会福祉史について 明治時代以降の日本の社会福祉の歴史と、それらに影響を与えたイギリスの社会福祉の関係を学ぶ。									
4	社会福祉の援助対象 社会福祉のニーズ	社会福祉の援助対象は、貧困、疾病などの現象であったが、次第にそれらを担う人びとに焦点化されていった。ニーズは、必要性、需要、欲求、要求、要件などと訳されることが多いが、それらを担っている人びとへのサービスと関係 づけられる。									
5	社会福祉政策と制度体系	社会福祉の法制度 社会福祉政策の制度は、憲法を法源とし、社会福祉六法として展開されている。									
6	社会福祉の行政	社会福祉の財政 社会福祉の行政は、国と地方自治体の関連した枠組みによって構成されている。									
7	社会福祉と民間福祉活動	社会福祉法人、NPO法人、ボランティアなどの民間福祉活動がある。									
8	社会福祉援助の意味(相談援助)	当事者である利用者主体によって、基本的には相談援助が進められる。									
9	社会福祉援助の方法	直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術に分けられる。									
10	関連諸サービスとの連携	保健、医療と社会福祉とが連携していく必要がある。									
11	社会福祉機関の組織と運営	福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所などの機関がある。									
12	社会福祉援助の利用と支援	利用者主体を尊重しながら、適切に支援(サポート)していくことになる。									
13	社会福祉援助の評価システム	社会福祉士 社会福祉援助の有効性をアセスメントし、専門的に援助していく。									
14	戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性	社会福祉の国際動向(1)									
15	21世紀の社会福祉の展望	21世紀には、多くの国々が少子高齢化の問題をかかえており、それらへの対処が大きな課題である。									
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%						教科書読み込み レポート文献収集					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年									

科目名		こども家庭福祉			
担当教員	堤 伸子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能など児童や庭の児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。				
学習目標 (到達目標)	児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、児童福祉及び子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開、法律、制度、福祉機関・施設の体系、母子保健、保育、児童虐待対策など子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と子ども家庭への援助活動について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 社会福祉士養成講座編集委員会 『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。参考文献 厚生労働省『厚生労働白書』。柏女霊峰『現代児童福祉論』誠心書房。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	1 第1章「現代社会と子ども家庭」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P34～			
2	第1章「現代社会と子ども家庭」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P34～			
3	第2章「子ども家庭福祉とは」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P36～			
4	第2章「子ども家庭福祉とは」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P2～			
5	第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P56～			
6	第3章「子ども家庭福祉にかかわる法制度」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P56～			
7	第4章「子ども家庭にかかわる福祉・保障」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P124～			
8	障害・難病のある子どもと家庭への支援	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P140～			
9	児童健全育成)	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P156～			
10	保育)	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P165～			
11	子育て支援)	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P184～			
12	ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P195～			
13	非行児童・情緒障害児への支援	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P231～			
14	児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P244～			
15	第5章「子どもと家庭への援助活動」	『社会福祉士養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』P270～			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書をあらかじめ読み込んでおく。レポート課題、試験課題の文献収集。			
実務経験教員の経歴	保育所勤務10年 専門学校非常勤講師10年				

科目名	健康科学				
担当教員	長谷川 覚	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	健康づくりの第一歩は自分の身体および心理がどのような状態にあるかを正しく把握することにある。その方法を学び、どのような生活を送ることによりその身体的および心理的状态を、より健康なものにできるかを考えていく。本科目では、生活習慣病と健康、身体の構造やその機能、運動の生理や心理等についての基礎的な知識を現代社会との関わりから考え、健康で豊かな生活を送る方法を理解する。				
学習目標 (到達目標)	健康に及ぼす食事・睡眠・運動・ストレスの影響、免疫機能と感染症、嗜好品、医薬品について学び、さらに健康食品・グッズの機能についての正しい知識に基づいて、自身の身体状況を的確に把握して、問題点がある場合に改善することができる能力を身につけることを目標とする。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書 佐藤祐造、他『テキスト健康科学』南江堂。参考文献 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。小田裕昭、他『健康栄養学』共立出版				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	イントロダクション：人体の生理機能と健康・病気の定義	『テキスト健康科学』P1～			
2	身体活動と食事・栄養	『テキスト健康科学』P75～			
3	運動の効能	『テキスト健康科学』P95～			
4	睡眠・日周リズムの意義	『テキスト健康科学』P133～			
5	ストレス刺激とストレス病	『テキスト健康科学』P133～			
6	免疫と生体防御機構	『テキスト健康科学』P16～			
7	感染症と対策	『テキスト健康科学』P139～			
8	快・不快と意欲	『テキスト健康科学』P50～			
9	医薬品の正しい使用法	『テキスト健康科学』P9～			
10	薬物乱用と防止対策	『テキスト健康科学』P34～			
11	飲酒の功罪	『テキスト健康科学』P130～			
12	喫煙の問題	『テキスト健康科学』P174～			
13	妊娠と出産	『テキスト健康科学』P128～			
14	健康維持・増進の総括	『テキスト健康科学』P122～			
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	テキストを読み込み理解しておく。			
実務経験教員の経歴	スポーツ推進事業15年 短期大学非常勤講師 5年				

科目名	スポーツ(実技)				
担当教員	長谷川 覚	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを实践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。				
学習目標(到達目標)	運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院。 参考文献 上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大きな把握	各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解			
2	スポーツテストの歴史とその役割	各テスト種目の実施方法の理解1(青年期)			
3	スポーツテストの歴史とその役割	各テスト種目の実施方法の理解2(壮年期)			
4	スポーツテストの実施方法の理解	各テスト種目の実施方法の理解3(高齢者)			
5	スポーツテストが意味するもの詳細とその意義	各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点			
6	スポーツテストの分析①	体力の総合的な分析(方法編)			
7	分析の実際②	体力の総合的な分析(統計処理1) * Excelを使った統計処理の理解			
8	分析の実際③	* 応用編(統計処理2) * Excelを使った統計処理の理解			
9	分析の実際④	分析結果の考察および相互における分析(分析結果から見えてくるもの)			
10	対象者(各現場の視点からによる)の体力・健康における近年の傾向	基礎体力から見た対象者の理解・基本的な生活習慣から見た対象者の理解			
11	各種トレーニングの理解と期待される効果	トレーニング効果の意味するものおよびその重要性			
12	近年における健康感	健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望			
13	スポーツ大会の計画・運営	既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画(実践も含む)			
14	スポーツ大会の計画・運営	既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画(実践も含む)			
15	本科目のまとめ	①基礎体力の具体的な分析能力 ②基本的な生活習慣の重要性 ③理想的な健康感 ④各現場において自分がすべきこと			
16	レポート課題	生活習慣病について文献を収集する			
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		試験課題・レポート課題のための文献収集			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	スポーツ推進事業15年 短期大学非常勤講師 5年				

科目名	保育内容総論				
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。				
学習目標(到達目標)	具体的な生活や遊びの中で保育内容の5つの領域を実践の中で総合的に捉える視点をもてるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。参考文献 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)(必携) 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)(必携) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』ひかりのくに。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「保育内容総論」とはなにか		教科書を読んで、科目全体の内容を確認する。保育者養成課程の「保育内容総論」		
2	第1章 保育の基本		第1章を読解し内容を整理する。		
3	第2章 保育内容の意味		第2章を読解し、保育内容5領域について確認し、整理する。		
4	第3章 保育内容の変容とその背景		第3章を読解し、保育内容の歴史的な変容について整理する。		
5	第4章 保育方法と保育内容		保育所保育指針の理解、及び保育所における幼児の経験と発達に即した保育を考える。		
6	第5章 子どもの育ちをどのように見るか。第5章を読解し、子どもの育ちについて考える。		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び幼稚園における幼児の経験と発達に即した保育と、小学校における教科とのつながりを考える		
7	第6章 3歳児未満児の保育内容と指導計画のポイント		第6章を読解し、内容を整理する。保育所保育指針も見ておく。また、保育指導計画のポイントを整理・確認する。		
8	第7章 3・4・5歳児の保育内容と指導計画のポイント		第7章を読解し、指導計画のポイントを整理・確認しておく。保育所保育指針も見ておく。		
9	第8章 1・2歳児の保育の展開		第8章を読解し、1・2歳児の保育の展開についてポイントを確認しておく。教育課程・保育の全体計画と指導計画、及び指導案の作成		
10	第9章 年少児の保育展開 第9章を読解し、年少児の保育展開を調べ、まとめる。		指導案の作成をふまえた模擬保育(乳児対象)と保育の評価		
11	第10章 年中児の保育の展開 第10章を読解し、年中児の保育展開を調べ、まとめる。		指導案の作成をふまえた模擬保育(幼児対象)と保育の評価(1)―保育者の子どもへの関わりを中心として―		
12	第11章 年長児の保育の展開		第11章を読解し、年長児の保育展開を調べ、まとめる。		
13	第12章 学校教育の基本としての保育		第13章 現代社会と生きる力の基礎 教科書を読解し、保育内容の歴史的変遷をまとめる。		
14	第2回から第7回までのまとめ		第1章～第7章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自です。保育実践の動向と保育の多様な構想と展開		
15	第8回から第13回までのまとめ		第7章～第12章についてノート整理をする。授業内容のまとめとポイントの検証		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書を読んで、科目全体の内容を確認する。			
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年			

科目名	保育内容(環境)				
担当教員	室井 修一	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。				
学習目標(到達目標)	保育の全体構造における環境に関して総合的に 指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 谷田貝公昭『コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境』一藝社。参考文献 柴崎正行、他『保育内容 環境』光生館。文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育の基本と領域「環境」について	環境を通して行う保育の基本を理解するとともに領域についての理解をする 保育の基本及び領域「環境」の意義について理解するとともに、自分の幼児期を振り返って資料とし、育ってきた環境について様々な側面から考えてまとめる。			
2	領域「環境」をさらに深く理解する	さまざまな環境(物的環境・人的環境・自然環境・社会的環境)について理解する			
3	幼児の成長発達の特徴を知る	0-5歳児の成長発達の姿を理解する			
4	保育者の感性と保育デザイン	情報機器及び教材を活用した、環境設定の仕方を理解する			
5	保育環境とはどのようなものか理解する	保育の場、幼児の自己形成空間を考える			
6	子どもの育ちを支える園環境	(1)園舎 保育室等、生活空間を考える(適切な環境を構成する多様な視点) 幼稚園生活の基本である園舎の適切な活用について 意見交換を行い、多様な視点があることを理解する。			
7	子どもの育ちを支える園環境	2)園庭 園庭及び地域資源の活用(環境適応能力の向上) 幼稚園全体の適切な環境について園庭及び地域資源(地域の公園等)の活用など、子どもの視点から意見 交換を行う。			
8	自然環境を考える	子どもにとって自然とかわかってくることの意義について 理解し、保育者の役割について考える。			
9	自然環境を考える(2)	子どもにとって動物とかわかってくることの意義を 理解し、保育者の役割を考える。			
10	領域「環境」の内容及び対象を理解する	情報機器 及び教材特性の理解や保育者の価値観、生活観が反映された教材研究を行う。			
11	模擬保育による検討(1)(ディスカッション及び発表)	季節や自然を感じる環境構成及び指導計画を考え 発表する。			
12	模擬保育による検討(2)(ディスカッション及び発表)	安全・安心な環境のための学安全計画及び指導計 画を作成する。			
13	幼児の科学的態度の育成について	幼児の知的好奇心、探求心を育む援助を考える			
14	幼児の文字・数量・記号等の援助について	保育の中での文字、数量、記号等の援助を考える			
15	幼児の環境教育について	情報端末を使用し、ESD について調べ、その具体的な活動展開を指導計画として展開できるようにする			
16					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書、参考文献を読み込んでおく。			
実務経験教員の経歴	国家公務員 短期大学非常勤講師5年				

科目名		指導法「健康」			
担当教員	片山 いおり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し、問題解決できるように育む保育者を目指す。				
学習目標 (到達目標)	保育者として子どもの健康な心と体を育てることができるよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	石井 昌彦 監修「保育」 片山 菜穂「乳幼児の健康」 大宇 図書出版、幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 厚生労働省『保育所保育指針』日本保育協会。				
		授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考		
1	健康の概念に関する理解		健康に関する諸定義（WHO定義ほか）や体力の概念について整理し、「健康」とはの考えをまとめる。「健康」についての基本的な定義を学び、子どもにとって望ましい「健康」な状態について考えをまとめ、発表しあう。		
2	領域「健康」のねらいと内容について		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらいと内容を理解する。		
3	心身の発達について(1)		発育発達の概念について整理し、スキヤモンの成長曲線のリンパ型と神経型について理解する。		
4	心身の発達について(2)		乳幼児期における子どもの身体の発育や身体諸機能の発達、保育者の関わり方や配慮、留意点を考察する。子どもの心身の発達特性の観点から発達段階別に保育者のかかわり方についてまとめ、発表しあう。		
5	基本的生活習慣の形成について(1)		基本的な生活習慣とは何か、その内容を整理し、基本的な生活習慣形成の必要性について理解する。		
6	基本的生活習慣の形成について(2)		食習慣や食文化を育む上での「食育」の重要性を食育基本法などによって確認する。		
7	基本的生活習慣の形成について(3)		子どもにとって適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解し、夜型生活の子どもについて考える。		
8	基本的生活習慣の形成について(4)		子どもにとって排泄・清潔・着脱衣の習慣形成が重要であることを理解し家庭との連携等の具体的な方法を考える。		
9	遊びと健康について(1)		乳幼児期の子どもにとっての「遊び」の重要性を理解し遊びを育むための保育者の資質と役割について考える。		
10	遊びと健康について(2)		子どもの遊びの現状と健康に関する諸問題について様々な資料から理解するとともに方策について考え発表する。		
11	遊びと健康について(3)		健康増進に資する「運動遊び」とは何かを理解し、遊びを行う上での配慮と留意点について発表しあう。		
12	遊びと健康について(4)		「運動遊び」の保育指導案を作成し、配慮と留意点について意見交換を行う。		
13	健康と安全について(1)		幼稚園・保育所等における事故の実態を教科書の図表やデータから把握する。		
14	健康と安全について(2) 安		安全に対する構えを育成するための幼児が理解できるような方策を演習形式で実践する。		
15	授業総括		第1回から第14回の講義を振り返る。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書をあらかじめ読み込んでおく。			
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務			

科目名		指導法「言葉」			
担当教員	中山 卓		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。				
学習目標 (到達目標)	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』株式会社みらい、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	シラバスを確認し、保育内容「言葉」の学修内容を整理・確認する。	シラバスの理解と授業及び学習方法を確認する。			
2	第1章 保育内容「言葉」の意義	言葉の意義について理解する。			
3	第2章「言葉」のねらいと内容	「わらい」とは何か? テキストを読解し、「わらい」と「内容」の関係を整理してまとめる。			
4	第3章 子どもの言葉の発達	0歳～6歳の子どもの発達のプロセスについて、テキスト付録により調べて理解する。			
5	第4章 子どもの言葉と環境	言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考える。			
6	第5章 保育者の指導・支援(援助)	言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考える。			
7	第6章 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 保育者の言葉が配慮を必要とする子どもに及ぼす作用について学習する。	管理・支援・援助の文言をまとめ、整理する。			
8	第7章 保育者の言葉	保育者にとって子どもに対する言葉かけの重要性について理解する。			
9	第8章 言葉と児童文化財(教材研究)	絵本、紙芝居、パネルシアターなど、子どもの言葉を育む教材について理解する。児童文化財を活用する保育実践の場面について、情報機器を活用して事例を検討し、言葉を育む観点についてグループディスカッションをする。代表的な児童文化教材である絵本・紙芝居を取り上げ、歴史・特徴を調べ、その選び方の基本を理解し、保育における活用について留意点等、具体例について意見交換を行う。			
10	第9章 言葉あそび(模擬保育)	伝承あそびを調べる。言葉あそびを収集する。その結果を発表して共有する。情報機器を活用し、伝承あそびや言葉遊びを調べ、習得する。基礎的な言葉遊びの具体例をまとめた結果を発表しあうとともに、その価値や活用についての理解を深め、言葉遊びのレパートリーを広げる。			
11	第10章 実技の方法(模擬保育と評価)	それぞれの児童文化教材にはそれにふさわしい方法があることを理解する。情報機器を活用し、保育実践の具体的な場面を理解する。代表的な児童文化教材である絵本と紙芝居について実演を行うことにより、それぞれの価値を理解し実践力を身に付ける。			
12	第11章「言葉」の指導計画 指導計画とは何かを調べ、指導計画を作成する。	指導計画の作成の基本、学年(発達段階)を決めてふさわしい指導計画を実際に作成して意見交換を行う。			
13	第12章 発展事例一 保育内容「言葉」のまとめ 第13章 言葉と国語教育	指導計画の作成の基本、学年(発達段階)を決めてふさわしい指導計画を実際に作成して意見交換を行う。			
14	模擬保育による検討(発表およびディスカッション)の準備	①わらべうた・言葉あそび 実際の保育状況を想定して、わらべうたや言葉遊びを発表しあう。			
15	模擬保育による検討(発表およびディスカッション)の準備	②児童文化財を活用した発表 実際の保育状況を想定して、児童文化財について発表しあう。			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		実技に使う絵本を用意し、読み込んでおく			
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務9年			

科目名		指導法「人間関係」			
担当教員	松延 毅		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、その上で、子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。				
学習目標 (到達目標)	保育内容を構成する人間関係について理解する。また、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 岸井慶子・酒井真由子 編著『コンパス 保育内容 人間関係』建邦社。 参考文献 文部科学省『幼稚園教育要領』 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』厚生労働省『保育所保育指針』				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	教科書第3章	教科書第2章を読み、乳幼児を取りまく人間環境について理解する。			
2	0～2歳までの幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針のねらい及び内容を理解する	乳児期の「人との関わり」に関する発達の過程を発達心理学の教科書・文献等から整理、内容を理解する。			
3	3歳児以降の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針のねらい及び内容を理解する	幼児期の「人との関わり」に関する発達の過程を調べる。			
4	パーテンによる「遊びの発達段階」について	パーテンによる「遊びの発達段階」について文献を調べて、理解する。			
5	パーテンによる「遊びの発達段階」の各段階における保育者の望ましい援助について	それぞれの遊びの段階と人とかかわる力との関係を検証し、どのような教材を活用し、援助すべきかを考える。			
6	0～2歳児の園生活のビデオ視聴により実際の子どもの姿と保育者の姿を理解し、保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	0～2歳児の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。			
7	3～5歳児のビデオ視聴により実際の子どもの姿と保育者の姿を理解し、仲間関係を築く力を育てるうえで保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	3歳以上の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。			
8	教科書の第9章	園生活に焦点を当てて、子どもの自立心や自律心がどのように育つかについて理解する。			
9	教科書の第10章	教科書の第10章を読む。			
10	教科書の第8章	教科書の第8章を読み、理解する。			
11	子育て支援を考える	保護者支援の 実際では、どのような言葉かけや支援の方法があるのかを保護者の心理を読み取りながら、望ましい対応の仕方を知る。実際にロールプレイを行い、意見交換を行う。			
12	幼児期と学童期の育ちの連続性	現代の学童期の子どもの人間関係を、文献や教科書等を読み、理解する。			
13	子どもの人間関係の力を育む指導案を作成	子どもの人間関係の力を育む指導案の構成および作成について理解する。			
14	人とかかわる力を育てる観点から環境構成を考え、発表しあいディスカッションを行う	模擬保育による検討			
15	実際の保育状況を想定して、人とかかわる力を育てることに向けての保育者のかかわり方を考え、発表しあい、ディスカッションを行う。	模擬保育による検討			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	幼稚園2年 保育所勤務6年 認定こども園園長2年(現在に至る)				

科目名		指導法「リズム表現」			
担当教員	大藪 宏子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につけることが必要である。本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し説明することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 平田智久、他『最新保育講座11 保育内容「表現」』ミネルヴァ書房。参考文献 無藤隆 監修『事例で学ぶ保育内容 領域表現』萌文書林。佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。井口佳子『幼児期を考える—ある園の生活より—』相川書房。萩原元昭『幼児の保育と教育』学文社。幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる。	オリエンテーション(授業概要) 保育における「表現」とは何か 五感を研ぎ澄まし表現する身体の準備			
2	領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する	保育内容「表現」のねらいと内容、子どもの発達と表現の捉え方について学ぶ。			
3	表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する。	リズムカルな身体を創る(リズム遊び・リトミックの理解)			
4	表現する身体は、音楽に合わせた遊びを通して獲得される。	・わらべうた等、遊びと一体となった歌について調べる。			
5	子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する。	子どもの歌の特徴と魅力(詩を朗読し歌い感じ考える。)子どもが歌うということはどうのことか			
6	季節に着目することで、行事やそれに関わるあらゆること、動植物や自然、命について観察し、感じ、考える。	季節を感じて伝える(絵、写真、実物を見て語る)			
7	造形に対する感性と表現について理解する。	素材との出会い①(素材～水、紙、石、ひも、葉等を使っての色、形の表現探索)			
8	造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する	・様々な素材による様々な表現について知り、実践できるようにする。			
9	音・音楽に対する感性と表現について理解する。	素材との出会い③(素材～水、紙、石、ひも等を使っての音の表現探索、個々の素材の音の紹介)			
10	音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する	素材との出会い④(音の発表、いくつかの素材の音を重ねる、鑑賞、意見交換、振り返り)			
11	子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現の関わりについて理解する。	中間のまとめ(表現のコアとなる体験の振り返り、他領域との関連)			
12	表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する。	・子どもたちが楽しみながら表現技術を身に付けるための指導方法と留意点を考察する。			
13	領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する。	・領域「表現」のねらいや内容を参考に、指導案を考えて作成してみる。			
14	模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。	・模擬保育の事例の分析を行うために、保育者としてどうあるべきか、保育集団のあり方について調べる。			
15	保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する	・保育内容「表現」のまとめ(保育内容「表現」における今後の課題)			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		保育表現についてイメージを持ち、手遊びやこどもの歌を覚えておく。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	リトミック教室多数開講 講師 12年				

科目名	コミュニケーション実習 I				
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	10
授業概要、目的、授業の進め方	社会一般で求められるコミュニケーション能力と、それを活用した自己表現力を養う。 インターンシップを通して就業体験と社会のなかで必要となる社会常識を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	1) インターンシップ先企業で与えられた就業体験の目的を達成できる。 2) 自らの職業意識を具体的に説明できる。 3) 社会人として身に着けるべき基礎力について説明できる。 4) 基本的な社会人基礎力を発揮できる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	特に設けない。インターンシップ先担当者により適時指定。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	事前学習、準備	インターンシップ先からの指定事項による。			
2	インターンシップによる現場実習	インターンシップを通しての現場学習。			
3	事後指導	体験内容の問員と振り返り。			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	後期:レポート試験50%、勤務態度試験40%、勤務意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	インターンシップ先の企業を事前に調べ、就業についての意識を持つこと。			
実務経験教員の経歴		専門学校勤務 20年			

科目名		保育者論			
担当教員	木村 直子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つよう学習を行う。				
学習目標 (到達目標)	保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 汐見稔幸・大豆生田啓友 編『保育者論』ミネルヴァ書房。参考文献 武藤安子、他『発達支援 一豊かな保育実践に向けて』ななみ書房。吉川晴美、他『共に育つ 一人間探求の児童学』宣協社。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育の意味(子どもを育てる二つのコースと制度としての保育)	保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化。			
2	保育の現状理解(社会の変化と保育ニーズ)	現在の保育問題について、制度の問題、行政の問題、保育現場の問題を参考資料、マスコミ情報などからまとめる。			
3	子ども観、保育観の重要性①	保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であることを理解する。			
4	子ども観、保育観の重要性②	西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。			
5	子ども観、保育観の重要性③	日本の思想の流れを理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。			
6	保育者と制度①保育者の制度的地位	我が国の保育制度をまとめ、根拠法令、所管、目的、対象児、公的負担、行政の仕組みなどを理解する。			
7	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教諭取得の要件	資格、免許取得の方法、学修内容、学習課程、修得すべき専門的能力の内容を理解する。			
8	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教諭取得の要件	幼稚園教育要領に記載されている保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、保育者の資質、能力、技術を理解する。			
9	保育者の役割と専門性②保育士	保育所保育指針に記載されている保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質、能力、技術を理解する。			
10	保育者の役割と専門性③保育者として望ましい資質	人間的素養(感性、判断力、応用力、共感性など)、専門的知識、専門的態度 実践技術などをまとめる。			
11	保育者に求められる専門性④保護者支援	保護者支援のために必要とされる態度、知識、技能をまとめる。			
12	期待される保育者①成長する保育者	保育における自己反省、カンファレンスなど 保育者自身の向上のための方法を理解する。			
13	期待される保育者②社会のニーズへ対応	教科書を手掛かりに、我が国の子育ての現状をまとめ考察する。			
14	保育者の職務と倫理	全国保育士会倫理綱領の内容を調べ保育者の職と求められる倫理とを理解する。			
15	今後の保育制度の動向と保育者の在り方	新しい保育制度についてしらべ、我が国が目指している保育制度、専門的役割、資質、能力をまとめる。			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書、参考文献を読み込んでおく			
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務21年			

科目名	教育心理学				
担当教員	益子 康平		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	教育心理学とは、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、幼児・児童及び生徒の心身の発達過程やその発達に影響を及ぼす諸要因の相互作用について理解し、理論的に説明できるようになることを目指す。その上で、心身の発達過程や学習理論、集団の作用などの理論的根拠に基づき、子どもの主体的な学習活動を支える援助について説明できるようになることを目指す。				
学習目標(到達目標)	子どもを教育していく上で必要となる心身の発達や学習に関する基礎的知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化。ウイニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。 町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。 古川聡、他『教育心理学をきわめる10のチカラ』福村出版。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	教育心理学とは	教科書pp.9-20を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究方法などを理解すること。			
2	教育心理学のあゆみ	教科書pp.12-20を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。			
3	子どもの発達 — 遺伝と環境、レディネスの概念 —	教科書pp.21-38を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境の関わり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。			
4	知能 — 知能の概念の有効性と限界 —	教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。			
5	性格(パーソナリティ) — 性格の概念と個人差 —	教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。			
6	学習のメカニズムについて	教科書 pp.60-63 および pp.70-74 を通読し、ハプロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。			
7	学ぶ意欲と授業の課程 — 動機づけとさまざまな授業方法 —	方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。			
8	学習の評価 — 教育評価の方法とテスト —	教科書pp.97-120を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえおくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。			
9	社会性を育む	教科書pp.155-175を通読し、社会性(向社会性と道徳性)を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。			
10	集団としての子ども — 教育現場の社会心理学 —	教科書pp.177-189を通読し、学級集団やグループワークなど、社会心理学的観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。			
11	子どもの不適応行動1 — いじめの問題 —	教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみる。			
12	子どもの不適応行動2 — 不登校、非行などの問題 —	教科書pp.204-208を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみる。			
13	子どもの不適応行動3 — 現代を生きる子ども —	現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どものように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみる。			
14	学校カウンセリングの基礎	教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。			
15	障害のある子どもの理解	教科書 pp.219-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。			
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	教科書及び参考文献を読み込んでおく			
実務経験教員の経歴	学校教育機関勤務 8年				

科目名		教育原理			
担当教員	益子 康平		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	<p>本科目は教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することをとおして、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的とする。</p>				
学習目標(到達目標)	<p>受講生一人ひとりが、教育(学)および児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養う。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>教科書 広岡義之『新しい教育原理』ミネルヴァ書房 文部科学省『幼稚園教育要領』文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』参考文献 林竹二「教えるということ」国土社。</p>				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	教育の基本原則(1)	教科書:pp.1-16 1. 人間形成と教育の本質 2. 教育の可能性と限界 3. 授業の本質			
2	教育の基本原則(2)	教科書:pp.16-28 4. 人間教育の可能性 5. 教育形式の非連続的なこと 6. 実存的人間理解と現代教育の使命			
3	西洋の教育の制度と思想の歴史(1)	教科書:pp.29-45 1. 古代の教育 2. 中世の教育 3. 近代教育の萌芽期 4. 17世紀の教育思想 5. 18世紀の教育思想			
4	西洋の教育の制度と思想の歴史(2)	教科書:pp.45-53 6. 産業革命と教育 7. 19世紀の教育思想 8. 新教育運動			
5	日本の教育の制度と思想の歴史(1)	教科書:pp.55-65 1. 近世の教育 2. 近代教育制度の確立期 3. 公教育制度の整備と教育勅語			
6	日本の教育の制度と思想の歴史(2)	教科書:pp.66-73 4. 大正期の教育運動 5. 戦時下の教育 6. 教育の民主化			
7	発達と教育(1)	教科書:pp.75-88 1. 発達の意味 2. 子どもの発達を支える教育的信頼について 3. ルドルフ・シュタイナーにおける子どもの発達段階の理論			
8	発達と教育(2)	教科書:pp.88-110 4. 子どもの発達段階に即して親や教師が心がけるべきこと			
9	家庭・地域教育(1)	教科書:pp.111-123 1. 家庭教育の意義と特色 2. 地域教育の意義と特色			
10	家庭・地域教育(2)	教科書:pp.123-136 3. 家庭・地域社会の課題 4. これからの家庭・地域教育			
11	新学習指導要領等の特徴(1)	教科書:pp.137-145 1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特徴			
12	新学習指導要領等の特徴(2)	教科書:pp.145-158 小学校の学習指導要領の特徴と課題 中学校、高等学校の学習指導要領の特徴			
13	現代教育の課題(1)	教科書:pp.159-165 1. 現代社会における教育的課題 2. これまでの我が国における教育制度上の変化と特徴			
14	現代教育の課題(2)	教科書:pp.165-179 3. 教育環境の変化と課題について 4. 子どもの現状と課題について			
15	現代教育の課題(3)	教科書:pp.179-186 5. 教師の課題 6. 免許 7. 今後の学校教育はどのように変化してゆくか			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
<p>前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>		<p>(資料)保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 小学校学習指導要領(総則)、中学校学習指導要領(総則)、高等学校学習指導要領(総則)【キーワード】改訂の経緯・基本方針・要点</p>			
実務経験教員の経歴	学校教育機関勤務 8年				

科目名	幼児理解				
担当教員	池本 由香利		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。				
学習目標 (到達目標)	本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい。吉川晴美・松井知子編著『人間関係の理解と心理臨床』参考文献 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第1章		幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める。		
2	『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第1章		幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ。		
3	『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第1章		保育者として、発達の過程を理解する意義をとらえなおす。		
4	『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第1章		幼児理解をするうえで重要な、発達の基盤である乳児期の発達課題と保育者(養育者)のかかわり方を学ぶ。		
5	『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第1章		児期前半と後半の発達課題と保育者のかかわり方、生活や環境 とのかかわりにおける発達理解を進める。		
6	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第2章		集団の中で育つ個人の育ちについて考え、具体的な活動の過程における育ちを捉える記録の取り方を学ぶ。		
7	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第2章		集団の中で育つ個人の育ちについて考え、具体的な活動の過程における育ちを捉える記録の取り方を学ぶ。		
8	ss幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第2章、3章		保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ。		
9	ss幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』第2章、3章		入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について 学ぶ。		
10	幼稚園教育指導資料第 3集「幼児理解と評価」』3章、		仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。		
11	『人間関係の理解と心理臨床』第3章		配慮が必要な子どもの理解を周りの幼児との関係をふまえた援助の仕方を学ぶ。		
12	『人間関係の理解と心理臨床』第2章		虐待などの問題などを理解し、特に配慮が必要な子どもの理解と援助の仕方を学ぶ。		
13	幼稚園教育指導資料第 3集「幼児理解と評価」』3章、『人間関係の理解と心理臨床』第3章		様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助すること、保護 者対応などについて学ぶ。		
14	幼稚園教育指導資料第 3集「幼児理解と評価」』3章、『人間関係の理解と心理臨床』第2章		障害や文化などの違いにたいして悩む保護 者の心情を理解し、共に育つための保育について考える。		
15	幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』1～3章		保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込んでおく		
実務経験教員の経歴		保育所勤務10年 短期大学非常勤講師5年			

科目名		社会的養護 I			
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。				
学習目標 (到達目標)	社会的養護及び児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的知識を得る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。 参考文献 山縣文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。新社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』中央法規。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	現代社会の環境や家庭の機能の変容		家庭の機能や役割が変化したり、家族員の人間関係がゆらいだり破綻したりしている現状を知る。		
2	現代社会の現状と課題		少子高齢化や地域格差など、大人や子どもの生活や未来に多様な影響を与えかねない状況を理解する		
3	現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題		児童の養育機能や教育機能の低下等の問題から、福祉的支援の必要性を理解する。		
4	現代社会における社会的養護に意義		公福祉施設における養護ばかりではなく、家庭的養護の充実や新たな開発の必要性について考える。		
5	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題		社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されている状況をふまえる。		
6	社会的養護の制度と実施体系		社会的養護の制度の柱である児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法等を理解する。		
7	児童の権利擁護		児童等の権利を擁護するための専門機関や専門職の必要性について学修する。		
8	施設養護の理念と施設養護の原理と援助		施設養護における支援や、児童の最善利益や安全・安心の保障、ニーズを的確に把握する。		
9	社会的養護の領域(家庭養護)		一般家庭と同等の機能や役割を果たすための機能を学修する。		
10	社会的養護の領域(施設養護)		施設養護には 生活施設、グループホーム、通所施設等があることを理解する。		
11	施設養護の実態		施設養護の、可能な限り家庭の代替機能を果たすための活動について理解する。		
12	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術①		社会的養護を実践するスタッフに必要な、人間性や利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得を目指す。		
13	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術②		行うソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク等について学修する。		
14	施設運営管理及び経営		施設の適切な運営管理、リスク管理や福祉サービスの向上を目指した内容や質の管理等について学ぶ。		
15	理想とする社会的養護と支援の内容や質		近年、ノーマライゼーション理念の中で利用者の多様な進路の選択と支援、アフターケア等について学修する。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込んでおく		
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年			

科目名		障害児保育			
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないが「トラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。				
学習目標 (到達目標)	本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点を置きながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 小林保子、立松英子『保育者のための障害児療育－理論と実践をつなぐ－』学術出版会。参考文献 田中千穂子、他『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ。本郷一夫『保育の場における「気になる子ども」の理解と対応－特別支援教育への接続－』ブレーン出版。内閣府『子ども・若者白書』 http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h24honpenpdf/index.pdf.html 内閣府『障害者白書』 http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html 厚生労働省『障害者総合支援法』。 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/sougoushien/				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	障害の理解 (教科書pp.11-22)		ICIDH、ICF、児童の権利に関する条約、障害者基本法、保育所保育指針		
2	障害のある子どもの生活を支える福祉や医療の制度 (教科書pp.23-32)		手帳制度、発達障害者支援法、障害者総合支援法、小児慢性特定疾患治療研究事業、臓器移植		
3	障害のある子どもの発達 (教科書pp.33-42)		発達の偏り、IQ、DQ、発達プロフィール、言語、運動、情緒、社会性、ボトムアップ、トップダウン		
4	療育における家庭の子育て支援 (教科書pp.43-54)		ライフステージ、障害の受容、Drotarの図、早期発見、早期療育、相談事業、地域支援		
5	療育の種類と支援・専門家との連携 (教科書pp.55-64)		統合保育、分離保育、並行通園、交流保育、通園施設、通所施設、病棟保育、		
6	地域における専門機関との連携 (教科書pp.65-72)		発達支援センター、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職、福祉職、Trans disciplinaryな支援		
7	就学への移行と特別支援教育 (教科書pp.73-89)		小学校との連携、個別の支援計画、特別支援教育、就学基準、特別支援教育コーディネーター		
8	よりよい療育実践のために (教科書pp.93-107)		発達の観点、非嫌悪的接近、合併症、発達検査(評価)、療育プログラム、実態評価		
9	知的障害児への支援 (教科書pp.109-115)		AIIDDの定義、知的機能、適応行動、認知、視知覚、協調運動、記憶		
10	肢体不自由児への支援 (教科書pp.117-132)		身体障害、脳性まひ、痙直型、アテトーゼ型、失調型、筋ジストロフィー、重症心身障害児、健康特性		
11	自閉症を伴う子どもへの支援 (教科書pp.133-142)		自閉症スペクトラム(ASD)、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、こだわり、視覚支援		
12	「気になる子ども」への支援 (教科書pp.143-150)		落ち着きがない子ども、注意欠陥多動性障害、強度行動障害、虐待との関係		
13	教材・教具と発達支援 (教科書pp.151-159)		触覚、はめ板、動作性課題と言語性課題、認知発達学習		
14	運動遊びと発達支援 (教科書pp.161-178)		粗大運動、微細運動、知覚運動、調整運動、身体意識、感覚運動期、前庭覚、固有覚、ムーブメント		
15	事例に基づいて				
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえておく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年			

科目名	こどもの保健				
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。				
学習目標(到達目標)	1)子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。 2)小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。 3)子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。 4)子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	巷野悟郎、他『子どもの保健－理論と実際－』同文書院。大西文子、『子どもの保健演習』習中山書店。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス:保育における子どもの保健の概要、健やか親子		第1章:小児統計、健やか親子について理解する		
2	子どもの健康を守る意義:健康の概念、解剖生理の理解		第1章:健康の概念、小児の解剖生理について理解する		
3	子どもの成長と発達①胎児の発育、小児期各期の身体発育		第2章:小児期各期の身体発育について理解する		
4	子どもの成長と発達②運動、神経、精神、呼吸、循環器		第3章:小児期各期の運動、神経、精神発育等について理解する		
5	子どもに多い病気①感染症		第7章:小児期に多い感染症の病態生理について理解する		
6	子どもに多い病気②感染症		第7章:小児期に多い感染症の病態生理について理解する		
7	子どもに多い病気③消化器系、呼吸器系、内分泌系		第7章:小児期に多い消化器系、呼吸器系、内分泌系の疾患の病態生理について理解する		
8	子どもに多い病気④アレルギー系		第7章:小児期に多いアレルギー系の疾患について理解する		
9	子どもの精神保健:子どもの環境・虐待の要因とその影響		第4・10章:子どもの環境要因・虐待の要因について理解し、その対策についても考察する		
10	子どもの発達障害:発達障害の種類とその対応		第5・6章:発達障害の種類とその特徴、子どもへの対応について理解する		
11	子どもの栄養:母乳栄養、人工栄養、離乳		第5章:母乳栄養、人工栄養、離乳の特徴について理解する		
12	子どもの健康管理①年間計画、月間計画(お便り作成)		第9章:子どもの健康を守るために年間計画を立て、実際におたよりを作成する		
13	応急処置の方法①:一時救急		第8章:小児の一時救急の方法を理解する		
14	応急処置の方法②:応急手当方法		第8章:保育現場の応急処置の方法を理解する		
15	まとめ		保育者として子どもの命、健康を守るために必要なことについてまとめる		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読んでおく		
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務21年			

科目名						こどもの音楽Ⅰ											
担当教員			折笠 伊佐美			実務授業の有無			○								
対象学科			こども保育幼稚園科			対象学年			2年								
必修・選択			必修			授業形態			対面と授業の併用								
						開講時期			前期								
						時間数			30								
授業概要、目的、授業の進め方						1. 音楽基礎Ⅰ、音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。ピアノの弾き歌いだけでなく、リズム遊びや器楽合奏などの経験を積み重ねていきながら、子どもの発達段階における音楽教育の重要性を学んでいく。 2. スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について ①ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、4曲の中から必修曲(☆の曲)と、そのほかに1曲を選び、											
学習目標(到達目標)						●A群「標準バイエルピアノ教則本」より ・78番ト長調 6/8拍子 ・80番ニ長調 3/4拍子 ・88番ト長調 4/4拍子「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第2番「アラベスク」イ短調 2/4拍子(☆) ●B群「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第2番「アラベスク」イ短調 2/4拍子 ・第3番「牧歌」ト長調 6/8拍子 ・第15番「バラード」ハ短調 3/8拍子 ・第25番「貴婦人の乗馬」ハ長調 4/4拍子(☆)											
テキスト・教材・参考図書・その他資料						教科書 石橋裕子、他『保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。<楽譜>『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。『ブルグミュラー/25の練習曲』全音楽譜出版社。参考文献 植田光子『手あそび百科』ひかりのくに。池田富造『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。木許 隆、他『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。高御堂愛子、他『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』主文社。神原雅之、他『幼児のための音楽教育』教育芸術社。桶谷弘美、他『音楽表現』の理論と実際』音楽之友社。大畑祥子『保育内容 音楽表現<第2版>』健帛社。河口道朗『音楽教育入門』音楽之友社。											
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考											
1						スクーリングでは、演奏のポイントや表現力の向上などを学ぶレッスンを受けることになるので、ある程度弾ける状態にした上で受講しなければ意味がない。A群かB群のいずれかを選ぶことになるが、個々の実力に合わせて選択を行うこと。また、弾き歌いの実技試験が実施されるが、こちらも課題曲6曲を両手で伴奏しつつ元気づけ歌えるまで練習を積み重ねてから受講すること。						事前学習：スクーリングでは、修了試験としてバイエルまたはブルグミュラーから課題曲が指定してある。					
2						ピアノおよび弾き歌いの演奏技術向上がスクーリングに本科目においてもとても重要であるが、スクーリングでは集団で器楽合奏なども行う。						保育や教育の場で必要と思われる知識や技術をできるだけ多く習得するよう努力を重ねること。					
3						スクーリング修了試験課題曲①						A)バイエル78番					
4						スクーリング修了試験課題曲②						A)バイエル80番					
5						スクーリング修了試験課題曲③						A)バイエル88番					
6						スクーリング修了試験課題曲④						A)ブルグミュラー第2番「アラベスク」:上記3のB) B)ブルグミュラー第25番「貴婦人の乗馬」					
7						スクーリング修了試験について						必修曲(☆)と選択曲の2曲を発表する。					
8						実技試験課題曲①「おべんとう」						楽譜下の※に書かれた注意事項をよく読んで、理解した上で練習すること。					
9						実技試験課題曲②「おかえりのうた」						前奏の2小節は、ペダルを使える者は、踏んだ方がよい。左手の三和音が重たくならないように気を付けること。					
10						実技試験課題曲③						「こいのぼり」					
11						実技試験課題曲④						「世界中の子どもたちが」					
12						実技試験課題曲⑤						「あわてん坊のサンタクロース」					
13						実技試験課題曲⑥「とんでったバナナ」						前奏の3・4小節目のリズムが非常に難しいので、ゆっくり正確に練習すること。					
14						実技試験について						どの曲を指定されても大丈夫なように、バランスよく練習しておくこと。					
15						レポート課題について						乳幼児の音楽的発達段階に合っていない曲を歌わせたり楽器を演奏させたりすることのないよう分かりやすくまとめること。					
16																	
17																	
18																	
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容											
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%						授業の前に課題曲を講読しておく											
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。ピアノ実技あり																	
実務経験教員の経歴						短期大学幼児教育科 非常勤講師 5年											

科目名	乳児保育 I				
担当教員	堤 伸子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。				
学習目標 (到達目標)	乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A。参考文献 厚生労働省『保育所保育指針 平成 20年告示』フレーベル館。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	○日本の子育て環境と乳児保育の実態		母親の就労と子育て支援、待機児童の実態等を理解する。		
2	○乳児保育の発展の経緯と政策の変遷		童福祉法制定から現代にいたる乳児保育の政策の変遷と課題について理解する。		
3	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね6か月未満>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(首が据わる、寝返り、笑い声の獲得等)		
4	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね6か月から1歳3か月>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(はいはい、人見知り、つかまり立ち、一人立ち、歩行、いたずら等)		
5	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね1歳3か月から2歳未満>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(歩行の確立、言葉の獲得、排泄、食事等)		
6	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね2歳>		〈科目終了試験学修のポイント1〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。(自我の確立、言語認識の発達等)		
7	○乳児の生活と健康		・乳幼児期における感染症とその対策について理解する。		
8	○乳児の生活と健康		・乳幼児期の起きやすい事故とその対策と、子どもを健康に育てるための留意点を学ぶ。		
9	○乳児の基本的生活と健康		科目終了試験学修のポイント2) ・だっこ、おんぶ、おむつ替えなどの援助を通して、情緒の育ちを理解する。		
10	○乳児期の基本的生活		・乳児期の生活リズム(授乳・食事・睡)について理解する。		
11	○乳児の遊びと対人関係・言語・遊びの発達過程と対人関係について理解する。		〈科目終了試験学修のポイント3〉		
12	○乳児の遊びと対人関係		・友達関係の広がりや援助について理解する。 (科目終了試験学修のポイント3)		
13	○保育計画の立て方・		計画の意義、立案、記録の取り方、評価について学ぶ。		
14	○乳児保育における現代的な課題		科目終了試験学修のポイント4) ・子育て支援と保育所の役割について理解する。		
15	○乳児保育の担当者として求められる役割と資質		〈科目終了試験学修のポイント5・6〉発達や理論、技術の基本的理解・育児の孤立化と子育て不安への対応・子育て家庭への情報提供 等を理解する。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		テキストを読み込む。			
実務経験教員の経歴		保育所勤務8年 幼稚園勤務9年			

科目名	こどもの健康と安全				
担当教員	高塚 真由	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育環境を踏まえ子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故の予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。子どもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また保育における保健的対応の基本的考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要な子どもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 巷野悟郎、他『子どもの保健－理論と実際－』同文書院。参考文献 鈴木路子、他『教育健康学－教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス:子どもの健康と安全を学ぶにあたって	健康の概念、母子保健統計、母子保健対策、健やか親子について理解する			
2	妊娠、胎児期の発育、染色体異常	:妊娠の成立、胎児期の発育、胎児に影響を与える要因について理解する			
3	子どもの成長と発達①:子どもの身体発育	発育の原則、子どもの身体発育について理解する			
4	身体発育の評価【演習】身体測定	第1章:身体測定の方法と評価について理解する			
5	子どもの成長と発達②:運動機能、神経機能、精神機能	新生児の反射、粗大運動、微細運動、言葉の発達について理解する			
6	健康の評価【演習】バイタルサインの測定	第1章:バイタルサインの測定方法、健康状態の評価について理解する			
7	子どもの養護①:母乳栄養、人工栄養、離乳	母乳の分泌メカニズム、母乳栄養の利点、離乳について理解する			
8	子どもの養護②【演習】調乳、手洗い	正しい手洗い方法、消毒方法、無菌的調乳方法について理解する			
9	子どもの養護③【演習】沐浴、口腔の衛生、排泄の援助	排泄のメカニズム、沐浴の目的、方法、口腔衛生について理解する			
10	子どもの保健の年間計画	子どもの健康を守るための保健計画を立てる目的、内容を理解する			
11	子どもの環境、事故の予防:環境の整備と安全教育	子どもの病気・事故特徴について理解する			
12	子どもの安全教育【グループワーク:教材作り】	テーマに沿った子どもの安全教育の教材を作成する			
13	子どもの安全教育発表、質疑応答	グループごとに子どもの安全教育の発表を行う			
14	救急時の対応	:一時救急の方法について理解する			
15	病気の子ども、障害のある子どもの対策	病気の子ども、障害のある子どもの対応方法について理解する			
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	こどもの保健をふりかえる			
実務経験教員の経歴	大学職員20年				

科目名		乳児保育Ⅱ			
担当教員	片山 いおり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	乳児保育Ⅰで学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。				
学習目標 (到達目標)	乳児の発達と遊び、保育者のかかわり方などを理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 阿部和子『乳児保育の基本』萌文書林。参考文献 高野清純、深谷和子『乳幼児心理学を学ぶ』有斐閣選書。深谷和子『子どもを支える～子どもの発達臨床の今とこれから』北大路書房。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	1 乳児保育の基本となる考え	乳児保育の意義を考察し、理解する。			
2	乳児の生活 日課	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・子どもの生活と保育者の配慮や保育者同士の連携について理解する。			
3	乳児の生活 遊ぶ	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・乳児にとっての遊ぶことの意義を知る。			
4	乳児の生活 食事	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・授乳・離乳・幼児食へのすすめ方について理解する。			
5	乳児の生活 睡眠	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・乳児期の睡眠リズム、睡眠に適した環境づくりや援助について理解する。			
6	乳児の生活 排泄	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・自立への過程を理解するとともに、援助方法を理解する。			
7	乳児の生活 安全	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・日常の健康管理と事故防止対策を理解する。			
8	乳児の生活 健康	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・感染症の種類と予防対策、発生した場合の対応を理解する。			
9	乳児の生活 保育室	〈科目終了試験学修のポイント1・3〉・親しみとくつろぎの場としての保育室の在り方を理解する。			
10	家庭とのつながり—連携の方法と支援について理解する。	科目終了試験学修のポイント4・5・6)			
11	保育所での環境と生活の仕方	保育環境としての人的、物的、自然・社会的環境と、保育所での生活の仕方を理解する。			
12	生活を支える保育者の役割	保育の計画・実践・記録・評価について理解する。			
13	子どもと生活を共にする保育者の役割	職員間の連携や、他機関との連携の重要性を理解する。			
14	日々の生活の中から見えてくる子どもの姿	乳幼児の生活経験と育ちについて関連性と重要性を理解する。			
15	乳児が生活する場所の問題	現状と制度と今後の課題について〈科目終了試験学修のポイント2〉・子育て支援センター事業や待機児童問題、幼保一元化の動向について理解する。			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		乳児保育Ⅰで学んだことを振り返る。			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務				

科目名		こどもの音楽Ⅱ			
担当教員	折笠 伊佐美		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	音楽基礎Ⅰ、音楽基礎Ⅱ、こどもの音楽Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させ、保育士および幼稚園教諭に必要なとされるレベルまで到達させる。特に、保育・教育に出て演奏しても練習の成果を出せるように、実践を意識した取り組みを行う。また、指導案を作成し、責任実習などに備えていく。				
学習目標 (到達目標)	<p>●A群(ピアノ初心者)「標準バイエルピアノ教則本」より ・91番イ短調 2/4 拍子 ・94番ヘ長調 2/4 拍子 ・104番ヘ長調 3/8 拍子 「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第15番「バラード」ハ短調 3/8 拍子(☆)</p> <p>●B群(ピアノ経験)「ブルグミュラー/25の練習曲」より ・第4番「子供の集会」ハ長調 4/4 拍子 ・第7番「清い流れ」ト長調 4/4 拍子 ・第9番「狩猟」ハ長調 6/8 拍子(☆) ・第19番「アベ マリア」イ長調 3/4 拍子</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 田崎教子『こどものうた 50選』ドレミ楽譜出版社。＜楽譜＞『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。『ブルグミュラー/25の練習曲』全音楽譜出版社。参考文献 植田光子『手あそび百科』ひかりのくに。池田富造『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。木許 隆、他『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。高御堂愛子、他『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』圭文社。神原雅之、他『幼児のための音楽教育』教育芸術社。桶谷弘美、他『「音楽表現」の理論と実際』音楽之友社。大畑祥子『保育内容 音楽表現<第2版>』健帛社。河口道朗『音楽教育入門』音楽之友社。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	個人レッスン	スクーリング 受講にあたっては、事前にこれら課題曲を弾けるよう練習をしておくこと			
2	個人レッスン	ピアノおよび弾き歌いに加え、スクーリングでは集団で器楽合奏なども行う。			
3	スクーリング修了試験課題曲①	A)バイエル 91 番			
4	スクーリング修了試験課題曲②	A)バイエル94番			
5	スクーリング修了試験課題曲③	A)バイエル104番			
6	スクーリング修了試験課題曲④	A)ブルグミュラー第15 番「バラード」			
7	スクーリング修了試験について	必修曲(☆)と選択曲の2曲を発表する。			
8	実技試験課題曲①	「ありがとうさようなら」			
9	実技試験課題曲②	「おぼけなんてないさ」			
10	実技試験課題曲③	「小さな世界」			
11	実技試験課題曲④	「うたえパンパン」			
12	実技試験課題曲⑤	「思いでのアルバム」			
13	実技試験課題曲⑥	「みんなともだち」			
14	実技試験について	課題曲6曲の中から1曲を指定する。どの曲を指定されても大丈夫なように、バランスよく練習しておくこと。			
15	レポート課題について	E.)ダルクローズ、Z.コダーイ、C.オルフの音楽教育法について様々な文献や資料を集め熟読すること。			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		各自個人練習に励むこと			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。ピアノ実技あり					
実務経験教員の経歴	短期大学幼児教育科 非常勤講師 5年				

科目名	図画工作Ⅱ				
担当教員	川崎 日香湊	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
学習目標(到達目標)	保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 花篤實、他『新造形表現 実技編』三晃書房。参考文献 花篤實、他『新造形表現 理論・実技編』三晃書房。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	科目概要を念頭に置きながら図画工作Ⅰで取り組んだ第2章～第3章の実技研修に取り組む。	第2章 実技研修の方法 1 材料経験『事例a～q(pp.18-34)』について興味のある実技研修に取り組む。			
2	2 造形遊び ①	『事例a～k(pp.39-50)』について興味のある実技研修に取り組む。			
3	2 造形遊び ②	①様々な成果を映像や写真も含めて記録し、保管しておく。			
4	3 かく ①	事例a～l(pp. 53- 64)』について興味のある実技研修に取り組む。			
5	3 かく ②	①自身の絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する。			
6	4 つくる ①	『事例a～g(pp.66- 82)』について興味のある実技研修に取り組む。			
7	4 つくる ②	①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現してみる。			
8	4 つくる ③	第3章 総合活動と製作『事例a～k(pp.84- 106)』について興味のある実技研修に取り組む。			
9	4 つくる ④	様々な素材の特性を活かしながら自由に表現してみる。			
10	第4章 保育実習に向けて	1保育実習の構え			
11	第4章 保育実習に向けて	2模擬保育体験			
12	第4章 保育実習に向けて	3模擬保育の例『事例a～o(pp.119-138)』について			
13	第4章 保育実習に向けて	3模擬保育の例『事例a～o(pp.119-139)』について			
14	第5章 美術基礎実習	1文化財からの分類			
15	第5章 美術基礎実習	2実技『1～4(pp.141-171)』について自由に取り組んでみる。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		図画工作Ⅰで行ったことを振り返る			
実務経験教員の経歴		美術公募展受賞歴多数			

科目名		幼児教育方法論			
担当教員	池本 由香利		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	本科目では、幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。また、教材研究、活動の展開、保育形態、評価の在り方などを学び、指導案の作成方法を理解する。さらに情報機器を使用した教材の作成や活用に関する基礎的知識、幼児の情報活用能力(情報モラルを含む)の芽生えを培う指導 法等を学習する。				
学習目標(到達目標)	実際の保育の場で必要とされる「環境の構成」及び「活動の状況や一人一人の幼児に応じた援助」について理解身に付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 小田豊、他『保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法』北大路書房。参考文献 幼稚園教育要領(平成 29 年 3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	保育方法の基本、保育方法の原理について(テキスト第1章)(科目終了試験学修のポイント1) 保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める。		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育 要領、保育所保育指針の確認。		
2	環境を通しての教育とは(テキスト第 1章)		1) 幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について、その意義と環境構成の方法について学ぶ。 幼児にとっての環境(環境の種類)―具体的な事例から相互作用を理解		
3	遊びを通しての教育とは(テキスト第 1章)		1) 幼児期にふさわしい生活をとらえる視点としての「遊び」について学ぶ。 子どもの発達段階と遊び―同種の遊びにおける遊び 方の違いと保育上の配慮について理解する。		
4	幼児の主体性の育成について(テキスト第 2章)		幼児期の特徴としての主体性について考える。子どもの主体性と保育者の意図、計画性、役割について考える。		
5	学びをはぐむ遊びの内容(テキスト第 3章)		遊びにおける子どもの自発的な行動― 遊びの事例 毎に環境構成、保育者のかかわり等を考え、グループで検討		
6	「環境を通しての教育」を展開するために		幼児の興味・関心、自発的な活動を引き出す道具、材料、場や 空間の構成、等の具体的な理解を深め実践力を身に付ける。 環境の構成の具体例を検討するとともに、子どもが伸 びようとする方向の把握と必要な援助の判断、ポイントなど保育者の援助についての討論、ロールプレイなど		
7	さまざまな保育形態(テキスト第 4章)		一斉保育、自由保育、異年齢 保育、等の保育形態の意義、メリットとデメリット、などについて考える。 多様な保育形態について調べて発表		
8	保育における指導計画		基本的事項に沿った保育者の援助や留意点等―についての理解 を深め、指導案計画の作成に活かす。 保育のねらいや内容、環境の構成と幼児の活動、保育 者の援助などを理解し一日の生活の指導計画を作成		
9	保育における省察と記録、実践と評価(テキスト第5 章)		保育における省察と効果的な記録のあり方、保育の評 価と計画のかかわりについて理解を深める。 様々な保育記録の事例を通して効果的な記録のあり 方を検討する。指導と評価の一体化について理解する。		
10	今日の電子機器及び教材		乳幼児期の情報機器利用状況について学び、情報モラルの芽生え をどのように育てていくかについて考える。 保育者としての役割を適切に果たすために、「メディアの受信者」「メディアの活用者」「発信者」としての 乳幼児期の能力の発達について知識や意識を高める		
11	幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営等への情報 機器の効果的な活用の仕方について学ぶ。		保護者との信頼関係や保育者相互の協力関 係を深めたりするための情報機器の活用について考 える。		
12	幼児期の教育と小学校教育との接続・連携(テキスト 第6章)		幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小 学校教師との連携について学ぶ。幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後 の小学校での様子の映像による理解		
13	家庭との連携を生かした保育(テキスト第7章)		家庭と園、保護者と保育者など相互に役割を補完し含 うトータルな保育環境作りや援助について考える。 多様な連携の方法―面談の方法、便りの事例などを具 体的に理解		
14	地域との連携を活かした保育(テキスト第 7章)		地域のさまざまな資源や教育力を活用する保育のあり方について考える。		
15	保育のボーダレス化と多様な保育形態(テキスト第8 章)		統合保育、多文化保育についての意義、方法、配慮事項について 幼児を取り巻く社会変化と関連づけて学ぶ。 近年の子育て環境の変化、保育者の役割、今後の向け ての保育理念等について―発表と意見交換		
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			テキストを読みこむ		
実務経験教員の経歴		保育所勤務10年 短期大学非常勤講師5年			

科目名		特別ニーズ教育論			
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。				
学習目標 (到達目標)	実際の保育の場で必要とされる「環境の構成」及び「活動の状況や一人一人の幼児に応じた援助」について理解し身に付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 小田豊、他『保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法』北大路書房。参考文献 幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレール館。文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレール館。文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	第5章 特別支援教育の歴史 障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について読解し、現在の特別支援教育の視点から相違点及び、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズについてまとめておくこと。また、母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応について、イン	障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について解説する。あわせて、重要度を増す特別支援教育について、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズ(母国語や貧困等の問題など)を抱えた児童への対応について、インクルーシブ教育の理念から討論する			
2	第1章 インクルーシブ教育への転換インクルーシブ教育の国際動向を読解し、サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮についてまとめておくこと。	サラマンカ声明にみる特別な教育的ニーズと障害者権利条約、合理的配慮について討論する。			
3	第1章 インクルーシブ教育への転換特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習について整理する。	わが国の特別支援教育の理念と制度、役割と機能について、交流及び共同学習の視点から整理する。			
4	第1章 インクルーシブ教育への転換特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について整理する	通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について解説する。			
5	第2章 障害児の教育課程と方法特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認しておくこと。	特別支援教育の教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について解説する。あわせて、通常学級における個別の指導計画の意義と運用事例について討論する。			
6	第2章 障害児の教育課程と方法教育内容について読解し、特別支援学級と通級指導教室の教科指導(読み・書き)と作業学習、自立活動についてまとめておくこと。	教育内容として、特別支援学級と通級指導教室の教科指導(読み・書き)と生活単元学習、作業学習、自立活動について意義の確認をした上で、特別支援学校における授業事例をもとに討論する			
7	第2章 障害児の教育課程と方法授業づくりを読解し、発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割についてまとめておくこと。	発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割について事例をもとに討論する			
8	第2章 障害児の教育課程と方法授業づくりを読解し、発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割についてまとめておくこと。	ICTを用いたコミュニケーションの光と影を理解した上で、発達障害や軽度知的障害を抱えた児童に対するソーシャルスキルトレーニング(SST)と、問題行動への対応について事例をもとに討論する			
9	第2章 障害児の教育課程と方法特別支援学校の制度を読解し、視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育について整理した上で、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成についてまとめておくこと。	学校制度上の視覚障害・聴覚障害・病弱・肢体不自由の各教育課程について、知的障害と対比させながら解説する。あわせて、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成について討論する。			
10	第3章 障害児者の発達・障害・生活障害と発達の基礎概念を読解し、発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係について整理・確認してまとめておくこと。	個人の発達と集団、社会の発展、障害者の自立、発達と教育の関係について、文化的発達の一般的発生法則の視点から討論する			
11	第3章 障害児者の発達・障害・生活障害と発達の基礎概念を読解し、いじめや非行、不登校と障害の関連、QOLを高めるための教育的な支援についてまとめておくこと	いじめや非行、不登校と障害の関連、QOLを高めるための教育的な支援について事例をもとに討論する			
12	第3章 障害児者の発達・障害・生活障害の診断・判断・支援を読解し、ウェクスラー式知能検査を整理した上で、ダウン症の行動特性の観点から課題と支援についてまとめておくこと。	幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小 学校教師との連携について学ぶ。幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後の 小学校での様子の映像による理解			
13	第3章 障害児者の発達・障害・生活障害の診断・判断・支援を読解し、読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラムについてまとめておくこと。				
14	第3章 障害児者の発達・障害・生活障害の診断・判断・支援を読解し、弱視、難聴、ろう文化と手話についてまとめておくこと。	通常学級における弱視と難聴の児童への教育的な支援について事例をもとに討論する。あわせて、ろう文化と手話について解説を加える。意見発表			
15	第4章 障害者のライフステージと教育・福祉就学前から就学へ、そして青年期から成人へを読解し、児童発達支援、障害児と学童保育、相談事業についてまとめておくこと。まとめとして特別ニーズ教育論のノートを整理する。				
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		テキストを読みこむ			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年				

科目名 教育相談(カウンセリングを含む)					
担当教員	中條 美奈子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、教育相談の具体的な進め方や、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。				
学習目標(到達目標)	学校における教育相談とは何か、その意義と課題を理解し、教育相談にかかわる心理学の基礎的理論や概念を学ぶとともに、教育相談を進める際に必要な基礎的知識を身に付ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	教育相談の意義(教科書pp.2-11)		教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。教育相談とは何かを知り、教育相談の予防・開発的な面と治療・矯正的な面を把握する。教育相談の歴史を検討し、教育相談と生徒指導のあり方について学ぶ。		
2	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド(教科書pp.13-21)		ポイント:子どもに対する教師の態度や姿勢として必要とされるカウンセリング・マインドについて理解する。来談者中心カウンセリングの意義を知り、受容・傾聴・共感的理解について学ぶ。		
3	開発的カウンセリング(教科書pp.23-31)		問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒が生きていくためのカウンセリングについて理解する。		
4	さまざまな心理療法(1)(教科書pp.32-36)		教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法について理解する。精神分析、ユングの理論について学ぶ。		
5	さまざまな心理療法(2)(教科書pp.36-40)		教育相談に役立つ行動療法、認知行動療法について理解する。		
6	さまざまな心理療法(3)(教科書pp.40-45)		教育相談に役立つ家族療法および短期療法について理解する。家族療法とブリーフ・セラピーについて学ぶ。		
7	パーソナリティ(教科書pp.48-55)		パーソナリティという概念について知り、教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論についての理解を深める。		
8	発達(教科書pp.57-67)		発達とは何かを知り、発達段階についての諸理論を学ぶ。		
9	発達障害(教科書pp.69-78)		発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。発達障害とは何かを知り、高機能自閉症、アスペルガー症候群、AD/HD、学習障害のそれぞれの特性について学ぶ。		
10	心の問題(教科書pp.79-88)		心の問題について理解することで、医療との連携が必要か否かの判断力を身に付ける。		
11	教育アセスメント(教科書pp.90-109)		学校でよく使われる心理テストについて理解する。子どものアセスメントの重要性を理解し、さまざまな心理テストの概略を知る。		
12	不登校・不登園(教科書pp.112-124)		不登校不登園の幼児児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。		
13	非行、いじめおよび虐待(教科書 pp.126-139、pp.149-162)		非行少年の理解を深めるとともに、いじめのメカニズムや基本的な対応について理解する。		
14	校内(園内)体制と組織的な取り組み(教科書pp.176-185)		学校(幼稚園)における校内(園内)体制の整備と組織的な取り組みの必要性について理解する。		
15	関係機関との連携・協働(教科書 pp.186-196)		幼稚園・小学校が連携する地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り協働の必要性について理解する。		
16					
17					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込んでおく		
実務経験教員の経歴		特定非営利活動法人 理事長			

科目名						こども家庭支援の心理学					
担当教員			益子 康平			実務授業の有無			○		
対象学科		こども保育幼稚園科		対象学年		2年		開講時期		前期	
必修・選択		必修		授業形態		対面と授業の併用		時間数		20	
授業概要、目的、授業の進め方		こども家庭支援の心理学では、まず乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶさらには家族・家庭の意義や機能を学び親子関係や家族関係等について、こどもとその家族を発達の視点や、包括的に捉える視点を習得する。7									
学習目標 (到達目標)		①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を習得する ③子ども伊達過程をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。④子どもの精神保健とその課題について理解する。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		「ハンドブック こども家庭の心理学」建帛社。石川洋子「子育て支援カウンセラー幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート」図書文化社。 岡本祐子、深瀬裕子『シリーズ生涯発達心理学① エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房。 滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院。 井村圭壯、今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房。 白幡久美子『改訂 保育士をめざす人の家庭支援 (保育士をめざす人の福祉シリーズ)』みらい。 松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子『実践 家庭支援論 第3版』ななみ書房。									
授業項目、内容						学習方法・準備学習・備考					
1	家庭支援のアプローチ					新聞やニュースなどで、子育てや子どもを持つ家庭をめぐる諸問題にどのようなものがあるか、調べる。					
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴					教科書を通読し、乳幼児期から学童期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。					
3	思春期から青年期の発達の特徴					教科書を通読し、思春期から青年期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。					
4	成人期から高齢期の発達の特徴					成人期から高齢期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。					
5	家族システムと家族発達					家族をシステムとしてとらえるとは、どのようなことか理解し、時とともに変化していく家族の在り方を把握する。					
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達					親の養育スタイルがどのような要因に影響されながら形成されていくか、また愛着にどのように影響していくか把握する。					
7	子育て環境の社会状況の変化					戦後の子育て家族の変遷について知り、子どもの育ちの場としての家庭・地域社会の在り方を考える。					
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス					子育て期における夫婦のワーク・ライフ・バランスについて把握しなれば必要かを考える。					
9	多様な子育て家庭への支援					育児不安、共働き家庭、孤立している家庭の事例から、このような家庭への支援の在り方を考察する。					
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援 I					特により重篤な家庭の事例として、貧困、虐待について取、り上げこのような問題・課題を持つ種への支援の在り方を考察する。					
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援2					前章に引き続き重篤な種々の事例として、保護者の精神疾患や疾病、外国にルーツを持つ家庭について取り上げこのような問題・課題を持つ種への支援の在り方を考察する					
12	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康					基本的な生活習慣の獲得過程、および、乳幼児期の事故防止と安全確保について把握する。					
13	子どもの心と健康					子どもの心の健康の基礎知識を把握し、さらに幼児期・学童期にみられる主な精神障害について事例をもとに理解し、対応を考察する。					
14	障害のある子どもの理解と対応					知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害などについて基本的な知識を把握する。					
15	災害と子ども					東日本大震災からの調査などから大きな災害と子どもの精神的健康、保護者をめぐる問題などを把握する。					
16											
17											
評価方法・成績評価基準						準備学習の具体的な内容					
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%						教科書をあらかじめ読み込んでおく					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。											
実務経験教員の経歴						学校教育機関勤務 8年					

科目名	就職実務Ⅱ				
担当教員	深井 美年	実務授業の有無	○		
対象学科	こども	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	こども保育幼稚園科	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理する為に必要な知識やビジネスマナーを学ぶ。ロールプレイングやグループワークが中心。				
学習目標(到達目標)	全国経理教育協会主催 社会人常識マナー検定3級合格。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会人常識マナー検定テキスト2・3級(全経公式テキスト)				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業の目的と目標、オリエンテーション				
2	社会常識	指定教科書P13～P32			
3	仕事と成果	指定教科書P34～P54			
4	一般常識	指定教科書P56～P86			
5	ビジネス計算	指定教科書P90～P100			
6	コミュニケーション	指定教科書P101～P124			
7	社会人にふさわしい言葉遣い	指定教科書P126～P144			
8	ビジネス文書の活用	指定教科書P146～P174			
9	職場のマナー	指定教科書P176～P180			
10	来客対応	指定教科書P182～P200			
11	電話対応	指定教科書P202～P216			
12	交際業務	指定教科書P218～P238			
13	文書類の受け取りと発送・他	指定教科書P242～P248			
14	会議	指定教科書P250～P252			
15	ファイリング・他	指定教科書P256～P264			
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	翌週の講義箇所を読んだうえで授業に臨むこと。 指示された課題を確実に提出する。			
実務経験教員の経歴	営業、ツアーコンダクター、クルーズスタッフなど旅行業界に25年係っていた				

科目名	コミュニケーション実習Ⅱ				
担当教員	立島 信貴	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	社会一般で求められるコミュニケーション能力と、それを活用した自己表現力を養う。 希望職種の情報収集やインターンシップ、ガイダンス、説明会参加、業種研究を通して就業体験と社会のなかで必要となる社会常識を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	1) インターンシップ先企業で与えられた就業体験の目的を達成できる。 2) 自らの職業意識を具体的に説明できる。 3) 社会人として身に着けるべき基礎力について説明、応用としての発揮ができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	特に設けない。ガイダンス、説明会先担当者により適時指定。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	事前学習、アポイント	訪問先からの指定事項による。			
2	インターンシップ、ガイダンス、説明会参加、業種研究による情報収集、就職活動への準備	講話、説明を通しての就職、職業学習。			
3	事後指導	体験内容の問員と振り返り。			
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	後期:レポート試験50%、勤務態度試験40%、勤務意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	講話、訪問先の企業を事前に調べ、就業についての意識を持つこと。業種研究を通して実際の現場の人の意見をよく聞くこと。			
実務経験教員の経歴	専門学校勤務 20年				

科目名		法学			
担当教員	大久保 友		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	憲法第25条は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しているが、この実現のためには、様々な社会保障、社会福祉の諸制度やそれに関わる行政機関への手続きが必要となる。社会福祉の専門家として、憲法、民法、行政法(特に生活保護法や児童福祉法など社会福祉に密接に関連する法律)の基礎知識を学ぶ。				
学習目標(到達目標)	社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法(中でも親族法、相続法)、行政法については、条文や判例の検討なども含めて研究する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。参考文献『図解による法律用語辞典』自由国民社。丹羽重博『やさしい法学・第3版』法学書院。伊藤正己『憲法入門・第4補訂版』有斐閣。山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	法の本質と目的(テキスト1頁～) 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。		社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。		
2	法源(テキスト7頁～) 成文法と不文法という法の存在形式(法源)を学修する。		法の存在形式である法源は、成文法・不文法・慣習法・判例法・条理法があることを理解する。		
3	慣習法と判例法(テキスト10頁～) 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握する。		慣習法とは、何か、判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。		
4	法の体系(テキスト14頁～) 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。		憲法・法律・政令・省令・規則のほか、地方の条例・規則が存在し、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。		
5	法の効力(テキスト18頁～) 法の妥当性と実効性を考察する。		法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲、法律不遡及の原則などについて理解する。		
6	法の適用と解釈(テキスト21頁～) 法の解釈方法の違いを見きわめる。		法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをい、適用にあたり様々な法の解釈が行われる。		
7	憲法の基礎(テキスト26頁～) 憲法の意味とその基本原理を学修する。		憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。		
8	立法と国会(テキスト39頁～) 国会の権限を知る。		国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。		
9	行政と内閣(テキスト50頁～) 内閣の機能を考える。		行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。		
10	司法と裁判所(テキスト60頁～) 裁判所の役割をつかむ。		司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。		
11	人権の概念とその限界(テキスト65頁～) 基本的人権の思想史とその種類を学修する		新しい人権(プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権)を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下での平等について理解する。		
12	自由権(テキスト83頁～) 自由権の種類とその内容を研究する。		精神的自由(思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由)について理解する		
13	社会権(テキスト96頁) 社会権の種類とその存在価値を検討する。		プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説、教育を受ける権利、労働基本権について理解する。		
14	受益権(テキスト108頁～) 受益権の種類とその事例を考察する		請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。		
15	参政権(テキスト112頁～) 参政権の種類とその意義を理解する。		参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。		
16					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書を中心に読み込んでおく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	公務員勤務 専門学校勤務 10年				

科目名		少年と犯罪			
担当教員	木村 栄一		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	日本は犯罪発生率の低い治安の良い国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、犯罪・非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みたり、効果的な治療、処遇の方法、犯罪・非行の被害者支援等についても考察したりする。				
学習目標(到達目標)	少年による 犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における各処遇システムについて理解を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	鮎川潤『少年非行 社会はどう処遇しているか』左右社(放送大学叢書025) 鮎川潤『新版 少年非行の社会学』、世界思想社、2002年。 伊藤富士江『司法福祉入門 第2版<増補>』、上智大学出版・発行(ぎょうせい製作・発売)、2015年。 河原俊也編著『ケースから読み解く少年事件 実務の技』、青林書院、2017年。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	少年非行・犯罪に対する基礎知識の確認(刑罰や犯罪・非行対策の歴史を含む)	まず、ハムラビ法典におけるタリオの法則や宗教的戒律、そして近代の罪刑法定主義など犯罪と刑罰の歴史について触れる。			
2	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向	少年非行の定義について触れたのち、少年非行の最近の動向とその背景、少年非行率の変遷について学ぶ。			
3	少年非行の原因と説明理論(非行原因論等)	少年非行の関連要因・危険因子として、行為障害や発達障害など本人の特性、家庭、学校、友人、地域社会における諸要因について考察する。			
4	少年非行の諸相①	凶悪・粗暴な非行 凶悪・粗暴な非行に関し欧米の知見、研究、少年による 殺人の前兆把握と予防のための対応策等について学ぶ。			
5	少年非行の諸相②	暴走族や学校の校内粗暴集団、地域の不良集団等、我が国における 具体的犯罪・非行集団の実情について紹介する。			
6	少年非行の諸相③	女子非行、性非行、ネット犯罪 最初に、女子非行の発生状況とその動向について概観したのち、その問題の所在について学ぶ。			
7	少年非行の諸相④	いじめ、学校内暴力、家庭内暴力(ストローク理論) 家庭と学校における非行として、いじめ、家庭内暴力、学校内暴力を取り上げアプローチを学ぶ。			
8	少年非行の諸相⑤	万引き、薬物非行、交通非行 について学修する。			
9	虐待や暴力にみる被害から加害への転化と暴力の連鎖—事例研究	受講生自身の自己体験あるいは身近な例、もしくはメディアで報道された特定の事例を紹介する。			
10	非行を未然に防止する活動(地域の非行防止活動と警察における少年相談)	まず、非行防止の種類に一次的予防、二次的予防、三次的予防の3種類があること、青少年が非行を行う機会を除去する二つの方向の活動があることを紹介する。			
11	少年事件の法的手続き—家庭裁判所	少年事件の全件を受理し審理する(全件送致主義)家庭裁判所の役割と機能の概要を紹介するとともに、保護的措置の多様化についても学ぶ			
12	非行少年の処遇① 児童相談所と少年鑑別所	最初に児童相談所の機能と業務内容の概要を過程から説明。收容して鑑別を行う意義について学ぶ。			
13	非行少年の処遇② 少年院	少年院は国の施設であり、全国に53庁あり、初等、中等、特別、医療の4種類に分けられ、それぞれに男子と女子に別々の施設が設けられることを説明。			
14	非行少年の処遇③ 保護観察所(少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等)	保護観察所の役割と機能について概観する。、少年対象者に対するケースワークの処遇やカウンセリングの実施についても理解する。			
15	犯罪・非行の被害者支援	犯罪・非行の被害者支援として5分野で制度整備が進められた。そのうちの取組みなどについて学ぶ。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書をあらかじめ読み込んでおく。興味のある事件、事例を調べておく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	学校教育機関勤務 20年				

科目名		教育法規			
担当教員	池本 由香利	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること。そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。				
学習目標 (到達目標)	1)教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。2)教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。3)学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 山本豊『有権解釈に重きを置いた 教育法規 第三版』学校図書。参考文献 菱村幸彦『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所。山本豊『改訂新版 教育法規相談ハンドブック 35』東京教育研究所 山本豊『書いて理解する教育法規 第二版』(株)オフィス・サウス。解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	教育法規を学ぶ意義(教科書pp.18-19) 第1章 教育法規の体系と構造(教科書pp.20-29)	1. 教育法規とは 2. 法体系と法の形式・形式的効力 3. 国の主な法令 4. 地方の主な法規 5. 法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理			
2	第2章 日本国憲法の教育に関連する規定(教科書pp.30-37)	1. 教育を受ける権利 2. 義務教育 3. 法の下での平等 4. 信教の自由 5. 学問の自由			
3	第3章 教育基本法 ①(教科書 pp.38-44)	教育基本法の改正			
4	第3章 教育基本法 ②(教科書 pp.45-59)	第二章 教育の実施に関する基本			
5	第4章 学校教育 ①(教科書 pp.60-77)	学校の設置と管理、学校の組織編制と配置職員、校長及び教員等の配置 など学校の運営を学ぶ			
6	第4章 学校教育 ②(教科書 pp.77-94)	学校教育の目的とそれを実現するための目標 7. 教育課程 8. 教育要領と学習指導要領			
7	第4章 学校教育 ③(教科書 pp.94-107)	9. 教科書の使用義務と補助教材 10. 備付表簿等とその保存期間 11. 学年・学期・授業日・休業日			
8	第5章 児童・生徒 ①(教科書 pp.108-139)	1. 義務教育 2. 義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業等 3. 児童・生徒等への懲戒・体罰の禁止			
9	第5章 児童・生徒 ②(教科書 pp.140-147)	4. 出席停止			
10	第6章 学校保健・安全・給食(教科書pp.148-175)	1. 学校保健 2. 学校安全 3. 学校給食			
11	第7章 特別支援教育(教科書 pp.176-187)	特別教育から特別支援教育へ 1. 特別支援学校 2. 特別支援学級 3. 通級による指導			
12	第8章 教職員 ①(教科書 pp.188-212)	1. 教職員の職務 2. 教職員の資格 3. 教育職員免許法			
13	第8章 教職員 ②(教科書 pp.212-244)	4. 教育公務員 5. 採用・承認・公認・転任 6. 含む			
14	第8章 教職員 ③(教科書pp.244-277)	7. 分限及び懲戒 8. 研修 9. 給与、勤務時間その他の勤務条件			
15	第9章 教育行財政(教科書 pp.278-311)	国と地方の役割分担 2. 国・文部科学省 3. 地方・教育委員会 4. 地方教育行政の組織及び運営に関する法律			
16	第10章 その他の教育関連法規(教科書 pp.312-365)	いじめ防止対策推進法・児童虐待の防止等に関する法律・国家賠償に関する法・学校図書館法・社会教育に関する法			
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書をあらかじめ読み込んでおく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	保育所勤務10年 短期大学非常勤講師5年				

科目名	こども家庭支援論				
担当教員	益子 康平		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	子育て家庭に対する支援の意義と役割について理解し、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、子どもの育ちの喜びを保護者と共有することや保護者自身の子育て実践力の向上に資する支援の重要性、保育士に求められる倫理観や受容的・共感的関わりのある方などについて習得する。さらに、社会資源の活用や関係諸機関との連携、子育て家庭のニーズに応じた様々な支援の展開、近年の子育て支援の体制や施策についても理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていける力を養う				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	松原康雄、他『子ども家庭支援論 新・基本保育シリーズ⑤』中央法規。伊藤嘉余子・野口啓示『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉10 家庭支援論』ミネルヴァ書房。 伊藤篤『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉12 子育て支援』ミネルヴァ書房。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	第1講 子ども家庭支援の意義と必要性		(pp.1-12)		
2	第2講 子ども家庭支援の目的と機能		(pp.13-24)		
3	第3講 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		(pp.25-36)		
4	第4講 子育て家庭の福祉を図るための社会資源		(pp.37-48)		
5	第5講 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		(pp.49-60)		
6	第6講 子どもの育ちの喜びの共有		(pp.61-72)		
7	第7講 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援		(pp.73-84)		
8	第8講 保育士に求められる基本的態度		(pp.85-96)		
9	第9講 家庭の状況に応じた支援		(pp.97-108)		
10	第10講 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		(pp.109-120)		
11	第11講 子ども家庭支援の内容と対象		(pp.121-132)		
12	第12講 保育所等を利用する子どもの家庭への支援		(pp.133-144)		
13	第13講 地域の子育て家庭への支援		(pp.145-156)		
14	第14講 要保護児童およびその家庭に対する支援		(pp.157-168)		
15	第15講 子育て支援に関する課題と展望		(pp.169-180)		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書、参考文献をあらかじめ読み込んでおく		
実務経験教員の経歴		学校教育機関勤務 8年			

科目名	こどもの食と栄養				
担当教員	清水 京香	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	<p>小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ことに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。</p>				
学習目標(到達目標)	<p>小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>教科書 上田玲子『新版 子どもの食生活―栄養・食育・保育―』ななみ書房。参考文献 岡崎光子、他『子どもの食と栄養』光生館KK。二見大介、他『保育ライブラリ 子どもを知る小児栄養』北大路書房。</p>				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	五大栄養素に栄養素を分類できる。	栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。			
2	五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。	それぞれの栄養素(五大栄養素)について役割を構造と関連させながら説明する。			
3	ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。	ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。			
4	離乳の定義を説明できる。	離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。			
5	離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。	離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。			
6	母乳、調製粉乳について説明できる。	母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。			
7	フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。	用途によって異なるミルクが存在することを理解し、ミルクの役割と乳児へ与え方を学修する。			
8	母乳の栄養的、心理的長所を説明できる。	母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。			
9	母乳の短所を説明できる。	母乳の短所となる要因を、学修する。			
10	偏食の定義を説明できる。	偏食がどのように定義できるかを学修し、疾患との違いを比較する。			
11	食欲不振の定義について説明できる。	食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。			
12	偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。	偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。			
13	熱量素、構成素、調節素について説明できる。	栄養素の役割による分類と五大栄養素との関連性について学修する。			
14	初乳について説明できる。	初乳の特徴を学修する。			
15	母乳の免疫について説明できる。	母乳の免疫の特徴と、どのように乳児へ与えられるかを学修する。さらに免疫のメカニズムを確認する。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
<p>前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>		<p>教科書をあらかじめ読み込んでおく</p>			
実務経験教員の経歴		管理栄養士 3年			

科目名		発達心理学Ⅱ			
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	ここでは保育実践に活かせる発達理解をすすめる。子どもを総合的に捉え、環境との主体的な相互作用の意義、現代社会における子どもの問題等を具体的に考察する。				
学習目標(到達目標)	遊びや生活の活動の具体的な姿に表れる発達の姿を扱い、発達課題に即した教育的環境構成ができるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。参考文献 内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床1 ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床2 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床3 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	子どもの発達理解の方法	教科書pp.113-122を通読し、発達検査や知能検査の種類や実施法、行動観察などについて理解する。また子どもの発達理解に関して、それらの技法を利用することの利点や問題点、限界などについても考察する。			
2	子どもの精神的健康と障害	教科書pp.123-133を通読し、各種の発達障害、虐待との関連などについて理解する。			
3	園内研修を通じた子どもの発達理解	教科書pp.134-142を通読し、園内研修の様子や、その在り方について理解する。			
4	他機関との連携を通じた子どもの理解	教科書pp.144-153を通読し、連携の重要性やその在り方について理解する。			
5	親子関係の発達と支援の実際	教科書pp.154-164を通読し、親子関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。			
6	仲間関係の発達と支援の実際	教科書pp.167-176を通読し、仲間関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。			
7	遊びの発達と支援の実際	教科書pp.178-189を通読し、遊びの種類や発達の様相について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。			
8	自己の発達と支援の実際	教科書pp.190-199を通読し、自己の形成や発達について理解する。			
9	認知発達への支援の実際	教科書pp.201-212を通読し、認知発達に応じた支援の事例を検討する。			
10	言語・コミュニケーションへの支援の実際	教科書pp.213-228を通読し、言語やコミュニケーション行動の発達に応じた支援について理解する。			
11	演習課題1	教科書 p.164の親子関係の発達と支援に関する演習1、2、3、および、教科書p.177の仲間関係の発達と支援に関する演習1、2、3を行い、簡単にまとめる。			
12	演習課題2	教科書 p.189の遊びの発達と支援に関する演習1、2、および、教科書p.199の自己の発達と支援に関する演習1、2を行い、簡単にまとめる。			
13	演習課題3	教科書 p.212の認知発達への支援に関する演習1、2、および、教科書p.228の言語・コミュニケーションへの支援に関する演習1、2、3を行い、簡単にまとめる。			
14	発達障害について	発達障害に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。			
15	虐待について	虐待に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。			
16					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		発達心理学Ⅰで学んだことを復習してから受講する。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年				

科目名	専門演習 I				
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	保育・子育て支援について具体的な事例、課題を取り上げながら演習形式にて、調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連づけることによって保育実習 I にも備える				
学習目標 (到達目標)	保育の現場で「保育」「子育て支援」「他文化の理解」の3つの視点を学生同士で、調べたり討論を交えたりしながら学修していく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 小田豊、他『保育臨床相談』北大路書房。参考文献 子どもの心理入門や各保育内容などで使用した教科書全て。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	現代社会と子どもの育ち pp. 4-13参照		社会変化が及ぼす子どもと保護者への影響を学修し、現代における保育・教育のあり方を考察する。		
2	幼児期の発達と遊び pp. 14-26参照		幼児期の子どもの発達と遊びの特徴を押さえる		
3	レポート対策1		子どもの心を知ることについて述べよ。導入として学修内容 1・2を要約し、保育者が子どもの心を知ることの意義についてまとめる。		
4	レポート対策2		子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法について (pp. 28-46参照)		
5	レポート対策3		子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について (pp.47-61参照)		
6	レポート対策4		子どもの心を理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について		
7	レポート対策5		保育におけるカウンセリングマインドの重要性について		
8	レポート対策6		観察のまとめ 子ども心を知ることについて自分独自の考えを根拠づけてまとめる。		
9	実践編1		保育者による保育の組み立てについて (pp.76-82参照)		
10	実践編2		保育者によるこどもへの対応について (pp.83-97参照)		
11	実践編3		保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について (pp.98-115参照)		
12	実践編4		学習中の指導・援助について (pp.118-126参照) <ポイント> Q and Aを学修し、実習に向けて自らの実習課題を発見して対策を考えてほしい。		
13	実践編5		実習生・初任者が抱えるこどもへの対応のわからなさについて (pp.127-137参照)		
14	実践編6		実習生・初任者における園や保育者とのかわりについて (pp.138-142参照)		
15	総まとめ		保育における保育臨床相談について		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			保育の現場で「保育」「子育て支援」「他文化の理解」の3つの視点をあらかじめ調べておくこと		
実務経験教員の経歴			幼稚園勤務21年		

科目名		専門演習Ⅱ			
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱ、Ⅲに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学修を行うことを通じて、問題解決能力を養う				
学習目標(到達目標)	「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、問題解決能力を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。参考文献 子どもの心理入門や各保育内容などで使用した教科書全て。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	実習施設の理解	保育所やさまざまな施設の役割と機能について理解を深める。			
2	子どもを観察する視点と方法①	年齢別の子どもの発達段階を知る。			
3	子どもを観察する視点と方法②	記録をすることの重要性			
4	保育実習時における子どもへの対応①	子どもを受け入れ、子どもの気持ちを知る。			
5	保育実習時における子どもへの対応②	葛藤場面での対応を考察する			
6	保育実習時における保護者への対応①	保護者との出会い、保護者を知ること			
7	保育実習時における保護者への対応②	実習生としてのふさわしい態度と姿勢(自分の長所・短所を知る)			
8	子育て支援について①	家庭、地域、子ども社会の変化と子育て支援の重要性			
9	子育て支援について②	支援の基本姿勢、具体的な方法			
10	実習中に学ぶ保育現場での支援①	園の基本的な一日の流れ			
11	実習中に学ぶ保育現場での支援②	保育をする上で指導計画を作成する意義			
12	保育環境	保育における環境構成のあり方			
13	児童文化教材	絵本、紙芝居、ペープサート、手あそびなどに触れ習得する。			
14	保育者の資質向上のために	保育職につく専門家としての心構え			
15	保育実習で学ぶことは	子ども理解、子どもとのかかわり、保育援助の仕方、保育者同士の連携、保育後の活動			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		過去の実習を振り返りながら、保育・子育て支援の具体的な事例、課題について調べておく			
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務21年			

科目名		カリキュラム論			
担当教員	益子 康平	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	20
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。				
学習目標 (到達目標)	「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 神長美津子、他『乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論』光生館。参考文献 川邊貴子『教育課程 保育課程論』東京書籍。汐見稔幸・無藤 隆監修『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房。文部科学省『幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館。幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	幼児教育における計画の重要性を理解する	「カリキュラム」、「教育課程」の意味することを理解する。(第1章)			
2	幼児期の学習の特質を理解する	遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。(第2章・第3章)			
3	経験カリキュラムと系統的カリキュラム	カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。(第1章)			
4	稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解	幼・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。(第4章)			
5	教育課程の編成の実際	教育課程編成の手順、形式、記入内容について事例を通して理解する。(第7章)			
6	教育課程と指導計画の関係	指導計画の必要性。教育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する。(第7章)			
7	幼稚園における長期指導計画	幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。(第4章)			
8	幼稚園における短期指導計画	幼稚園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。(第4章)			
9	指導計画と保育実践	これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。			
10	保育の記録と反省(第8章)	評価・保育における記録の重要性と記録の仕方、計画—実践—反省—計画の関係性を、事例を通して学ぶ。			
11	保育の評価と計画の改善、カリキュラム・マネジメントの意義と実際	長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するか、事例を通して学ぶ。カリキュラム・マネジメントの意義と幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のカリキュラム・マネジメントの実際を学ぶ。(第8章・第9章)			
12	教材研究	幼児教育の目的を達成するために適切な教材の在り方、選定の方法などを学び、さまざまな場面における教材について考える。			
13	保育所・幼保連携型認定こども園の保育の計画	保育所及び幼保連携型認定こども園の保育の計画を学び、幼稚園の保育の計画との違いをとらえる。(第5章・第6章)			
14	小学校との連携	指導要録等、幼児施設と小学校の連携に関する作成の在り方や方法を事例を通して学ぶ。(第11章)			
15	保育の計画の展望	社会の保育ニーズ、保育・教育制度の変化と保育の計画の内容との関連、他国の保育の計画の考え方を考察する。(第10章)			
16					
17					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		教科書をあらかじめ読み込んでおく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	学校教育機関勤務 8年				

科目名	保育表現技術演習				
担当教員	大藪 宏子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	本教科は保育における言語的な表現技術を学修する。				
学習目標 (到達目標)	保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。同時に保育者に求められる人間性の醸成をはかっていく。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 駒井美智子、他『すぐに使える笑顔いっぱいあそびのレシピ』大学図書出版。参考文献 咲間まり子『保育原理』大学図書出版。関口はつ江、他『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。駒井美智子、他『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい社。厚生労働省『保育所保育指針』。文部科学省『幼稚園教育要領』				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シラバスの確認・授業展開及び期末課題の確認		保育とは何か、確認する。		
2	保育とは何か・意義と目的1		保育の質と組織活性化について		
3	保育とは何か・意義と目的2		保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について		
4	保育とは何か・意義と目的3		保育教材の三機能について(教育性・興味性・児童性)		
5	保育とは何か・意義と目的4		保育教材の支援と援助について(二重の支援について)		
6	保育教材の必要性について		何故保育教材は必要なのか、保育者の表現力について考える。		
7	保育教材の作成企画		おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本等 実際に作成企画案をたてよう。		
8	保育教材の作成①		おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実際に作成しよう。		
9	保育教材の作成②		おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実際に作成しよう。		
10	保育教材の実践		おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等 実践しよう		
11	保育教材の実践の反省と課題①		保育教材の効果と今後の課題について整理しまとめる。		
12	保育教材の実践の反省と課題②		現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。		
13	保育教材の実践の反省と課題③		現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。		
14	幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる。		統合保育・多文化保育等についても考える。日常保育活動の中での保育教材を考え整理する。		
15	保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか。		身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現 自分自身の自己点検をし、課題をみつめよう。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		作成したいものをあらかじめ決めておく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	リトミック教室多数開講 講師 12年				

科目名		子育て支援			
担当教員	中條 美奈子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者とかわる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際(内容・方法・技術)を学ぶ。				
学習目標(到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者による子育て支援が求められる社会的状況について理解する。 2. 子育て支援の意義と原則について理解する。 3. 保護者支援の基本を理解する。 4. 子育て支援の実際について学び、内容や方法を理解する。 5. 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の実際について理解する。 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	亀崎美沙子、他『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社。東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 岡野雅子他著『新保育学 改訂5版』南山堂。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション、子育て支援とは	子育て支援とは何かについて理解する。(第1章1)			
2	子育て支援の意義	いまなぜ子育て支援が必要とされているか、その背景について考える。			
3	子育て支援の基本① 子どもの最善の利益	子育て支援は「子どもの最善の利益」を目指して行う取り組みであることを理解する。			
4	子育て支援の基本② 保育者の専門性の活用	保育の場のもつ特性と保育の専門家である保育者の専門性を生かすことを学ぶ。(第2章1)			
5	子育て支援の基本③ 保護者の養育力の向上	保護者に対する子育て支援とは、保護者の養育力の向上をめざして行う取り組みであることを理解する。			
6	子育て支援の基本④ 保護者との信頼関係の形成—共感・受容—)保護者との関係構築のためには保護者に共感し、受容する態度が重要であることを学ぶ。(第2章4)			
7	子育て支援の基本⑤ 保護者の自己決定の尊重と秘密保持	保護者自身が自分で判断し決定することを尊重するとともに、保護者からの相談のなかで知り得た個人情報等の秘密保持は専門家として必須であることを学ぶ。			
8	子育て支援の基本⑥ 関係機関との連携・協力)保護者が抱えている課題に対して保育所・幼稚園・認定こども園等だけでは対応しきれない場合には、適切な関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する。			
9	子育て支援の実際① 子育て支援における保育環境の活用	環境構成は保育の方法であるが、子育て支援においても環境を通して保護者の子育てを支えていくことを考える			
10	子育て支援の実際② 相互理解や交流を深める	保育者との相互理解や保護者同士の交流を深めるための工夫について考える			
11	子育て支援の実際③ 安心感や親としての自尊心を支える	保護者が安心感をもち心理的ゆとりを生み出すことにより自尊心がもてるように支えるための工夫について考える。			
12	保育者の子育て支援における葛藤① 子育て支援の困難性)子育て支援の難しさについて、保護者・子ども・保育者の三者関係および保育システムの4つの視点から整理する			
13	保育者の子育て支援における葛藤② 保護者の特性や子どもの発達上の課題と子育て支援	保護者のモラルの低下等や、発達上の課題をもつ子どもの保護者との関わり方の難しさについて考える			
14	保育者の子育て支援における葛藤③ 保育者の援助の構えや保育システムの特性と子育て支援)保育者の援助の構えのあり方や保育システムから生じる子育て支援の難しさについて考える。(
15	まとめ:「子どもの最善に利益」を保障する	全体を振り返り、保育の専門性を生かした子育て支援により「子どもの最善利益」を保障することに向けて考えをまとめる			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		教科書、参考文献を読み込んでおく			
実務経験教員の経歴	特定非営利活動法人 理事長				

科目名	社会的養護Ⅱ				
担当教員	金子 友紀		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学修する。加えて、地域社会と居 住型児童福祉施設の関係性についても理解する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	教科書 小野澤晃、田中利則、他『子どもの生活を支える社会的養護内容』ミネルヴァ書房。参考文献「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会『子どもが語る施設の暮らし』明石書店。長谷川真人『児童養護施設の子どもたちはいまー過去・現在・未来を語るー』三学出版				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会的養護内容とは何か		＜社会的養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を保障するための実践分野のことである。＞		
2	社会的養護内容の基本的視点		＜社会的養護内容の基本的な視点。権利擁護、施設利用者からの苦情解決の取り組みを考える。＞		
3	社会的養護内容を進める際の基本的方向性		＜社会的養護内容を進める際の基本的方向性としては、予防ケアの充実である。＞		
4	施設養護の現状と課題①		＜施設養護の現状と課題は、利用者の人権擁護に向けたスーパービジョンの活用等の取り組みである。＞		
5	施設養護の現状と課題②		＜施設養護の今一つの現状と課題は、施設退所後のアフターケアの充実である。＞		
6	施設における支援の実際①		＜利用者の状況やニーズの分析、支援計画作成、支援の実際、支援の評価等の流れを理解することは重要。＞		
7	施設における支援の実際②		＜施設の小規模化や職員の労働状況の内容および質の変化が進んだ中での就労支援について理解する。＞		
8	児童福祉施設・機関における支援の実際①		＜児童施設の支援の実際の中で必要とされる支援について理解する。＞		
9	児童福祉施設・機関における支援の実際②		＜施設の支援の実際、保護者や家族とのつながりを再構築できるよう個々に応じた個別指導にの必要性を理解する。＞		
10	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術		＜適切な社会的養護内容の実践を行うために、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたりすることは必要不可欠である。＞		
11	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用		＜社会的養護内容の充実(利用者のQOLの向上)を図るためにはどんな工夫が必要か考察する。＞		
12	利用者支援とリスク管理		＜施設において支援する際の人権侵害の危険性を回避するためにリスクの管理について。＞		
13	社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理にあり方		＜社会的養護内容を受け持つ施設の役割、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理について理解する。＞		
14	施設実習に向けて必要とする知識		＜施設実習に向けて必要とする知識、日常的に必要とされる知識を考察する。＞		
15	今後の展望と課題		施設養護内容の適正化や維持・向上について理解する。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			教科書をあらかじめ読み込んでおく		
実務経験教員の経歴		児童養護施設 施設長			

科目名		保育・教職実践演習			
担当教員	岡 麻衣子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	通年
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標になっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。そのために現在の保育問題(少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等)についてよく調べ、身近な具体的課題を設定し、テーマ毎に研究、グループ討議、研究発表を行う。◎保育教諭とは何か。保育士と幼稚園教諭を学ぶ。				
学習目標(到達目標)	これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 横山文樹、駒井美智子編著『保育・教職実践演習』大学図書出版。社会福祉法人日本保育協会『保育所保育指針』。文部科学省『幼稚園教育要領 解説』フレーベル館。福本俊監修、駒井美智子、他著『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版。参考文献 厚生労働省『保育所保育指針』。文部科学省『幼稚園教育要領』。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育をするとはどのようなことか	保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかをまとめ、保育者の責任と倫理を理解する。			
2	子どもの最善の利益を考慮した保育	現在は「子どもの最善の利益を考慮した保育」の意味を考え、保育者としての使命、実現における問題点は何かを考える。			
3	幼児教育者に求められているもの①日本の子育て環境の問題点について	少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等を新聞、雑誌などから集めて、整理する。			
4	幼児教育者に求められているもの②	日本の保育制度の問題点について：保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。			
5	幼児教育者に求められているもの③	現在の問題点を政治的、経済的立場、保護者の立場、子どもの立場から考える。			
6	保育環境の改善①子どもの安全と安心のための環境	乳児保育における保育者の気配り、時間的空間的死角、安全確保のための心構え、連携等についてまとめる。			
7	保育環境の改善②	子どもの活動発展のための環境：子どもの自発的活動を促進させるための環境構成を考える。			
8	保育環境の改善③地域との連携協力	地域の人と互いに協力して地域の子どもを育てる意識をつくるための保育者としての工夫を考える。			
9	総合的な実践の結びつき①保育者としての基本的なふるまい方(公平性、真実性、相手の尊重、社会的マナー、生活習慣、言葉遣い等)	保育場面を限定してロールプレイをし、自己反省をする。			
10	総合的な実践の結びつき②子どもの内面理解と受容	信頼関係の形成の重要性を確認し、かかわりの実際事例を幾通りも考え、その効果を考察する。			
11	総合的な実践の結びつき③子どもの活動発展のためのかかわり	物の活用、共感、参加、誘導などを、具体的場面を想定して考え、多様な観点から考察する。			
12	総合的な実践の結びつき④保護者とのかかわり	支援の仕方、保育者のニーズにどう応えるか。事例を出してロールプレイを行う。			
13	総合的な実践の結びつき⑤保育教材の創意工夫	身近な材料を用いて手作り教材を手軽に作成する習慣を作る。			
14	保育者としての向上①	保育者の振り返り、保育カンファレンス、相互評価から、他に対して開放的、建設的な態度、向上心を形成する。			
15	保育者としての向上②	保育者としての自己課題、互いの長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		これまで学んできたことを振り返る			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	幼稚園勤務9年 短期大学及び専門学校非常勤講師8年				

科目名		卒業研究			
担当教員	木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	34
授業概要、目的、授業の進め方	2年間で学んだことについて(医療に関するテーマ)を決め、自主的に研究に取り組み、PowerPointを用いて研究発表を行う。				
学習目標(到達目標)	自分の意見・主張を論理的に述べるができる。 社会人として必要な仕事の進め方や取り組み方等を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	書籍、新聞、インターネット等から資料収集を行い、比較・分析して研究を進める				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	導入(講義の概要、進め方、評価基準について)	プリント対応			
2	計画表等の作成、PowerPoint(基本操作)	プリント対応			
3	病院実習報告スライド作成・発表準備	プリント対応			
4	病院実習報告スライド作成・発表準備・リハーサル	プリント対応			
5	病院実習報告発表	プリント対応			
6	卒業研究概要説明、論文研究	プリント対応			
7	論文研究、研究報告書、テーマ選定報告書、論文作成計画書の作成	プリント対応			
8	論文作成、卒業研究発表スライド作成・発表準備	プリント対応			
9	卒業研究発表準備・リハーサル	プリント対応			
10	卒業研究発表				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
考査60%、課題提出15%、授業態度等25% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		自主的に研究に取り組み、計画的に作成すること。 提出期限を守ること。			
実務経験教員の経歴		幼稚園勤務21年			

科目名 保育実習事前指導 I (保育所・施設)								
担当教員		宮越 美恵子		実務授業の有無		○		
対象学科		こども保育幼稚園科	対象学年		2年	開講時期		前期
必修・選択		必修	授業形態		対面と授業の併用	時間数		20
授業概要、目的、授業の進め方		実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育実習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。1. 保育実習の意義・目的を理解する。2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。3. 保育者としての心構えや態度を学ぶ。4. 保育技術を習得する。5. 実習記録の記入方法・内容を理解する。6. 指導案を理解し、立案する。(主として部分実習)						
学習目標 (到達目標)		保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。駒井美智子『施設実習ガイド—保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。参考文献 河達貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。						
		授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	『保育実習の学習ガイド』	保育実習の意義・目的を理解する。実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。						
2	保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。	実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする						
3	施設実習を行う施設の機能、社会的役割	一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。						
4	保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。	一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。						
5	施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。	保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。						
6	実際に指導案を作成する。	複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。						
7	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。	手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(1)						
8	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。	手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。(2)						
9	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(1)						
10	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(2)						
11	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育	実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人 差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。(3)						
12	模擬保育演習を振り返り	子どもの発達や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(1)						
13	模擬保育演習を振り返り	子どもの発達や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。(2)						
14	これまでの学修を総点検	いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備しておく。						
15	実習直前に向けて	実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。						
16								
17								
18								
評価方法・成績評価基準				準備学習の具体的な内容				
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%				過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。								
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他						

科目名	保育実習 I (保育所・施設)				
担当教員	外立 明子/片桐 友紀/木村 直子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	180
授業概要、目的、授業の進め方	今までの学習内容をふまえて、保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察を通して子どもとのかかわり方や保育士の仕事を理解する。				
学習目標 (到達目標)	こども及び保護者への援助や関わりを学ぶ。子どもの発達過程を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	保育所保育指針				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育所の一日の流れをとらえる。	記録に基づく省察・自己評価をする			
2	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
3	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
4	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
5	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
6	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
7	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
8	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
9	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
10	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
11	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
12	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	体調に気をつけて実習に挑む			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務 他				

科目名 保育実習事後指導 I (保育所・施設)					
担当教員	宮越 美恵子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習 I での総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習 II (Ⅲ)に向けた学修目標・課題を明確化する。				
学習目標 (到達目標)	1. 保育実習 I で生じた疑問点を解消する。2. 保育実習 I の反省と自己課題を明確にする。3. 保育者に求められる資質・能力について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。森上史朗、他『新・保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』ミネルヴァ書房。青木久子『子どもに生きる』萌文書林。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育所実習の目的、意義を再確認する				
2	自己の実習を振り返る(保育所実習)	実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。			
3	自己の実習を振り返る(施設実習)	実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。			
4	施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する	実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。			
5	自己の実習を振り返る(施設実習)	実習ノートから 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。			
6	自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備	実習後の自己課題について			
7	自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備	1～6の学修内容について、スクーリング時に発表できるようにまとめを行う。			
8	保育現場に関する視聴覚教材	保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。また、子どもを理解する大切さを知る。			
9		子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(0～2歳)			
10		子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する(3～5歳)			
11	保育技術の修得	教材研究(絵本、紙芝居、折り紙、手遊び等)			
12	保育士の専門性について考察する(1)	保育士の専門性とは何か。			
13	保育士の専門性について考察する(2)	これからの保育者に求められるものとは何か。			
14	保育士をとりまく今後の課題について	子育て支援・家庭支援、地域に根ざした保育所とは。			
15	実習現場から得られた学びと、この科目の学習で得た新たな保育観についてまとめ	次回の実習における課題を明確にする			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		実習日誌日誌から実習内容を振り返る			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務 他				

科目名	保育実習事前指導Ⅱ(保育所)				
担当教員	片山 いおり	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。 保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。				
学習目標(到達目標)	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	実習の手引き	保育実習の時期及び準備等			
2	実習を通して学ぶ・目的と確認	どうして実習が必要なのか。			
3	実習生の心得・実習生の基本的マナー	実習生とは-ワークシートを通して-			
4	幼稚園・保育園 保育内容の違い	一日の流れの違い・共通点			
5	子どもの心を支える保育者・生活文化を伝える保育者	保育者に望まれる資質とは-ワークシートを通して-			
6	実習日誌(1)	実習日誌の必要性・作成のポイント			
7	実習日誌(2)	-ワークシートを通して- 形式と内容・記録の取り方			
8	実習日誌(3)	実践に備えて、手書きに慣れる			
9	指導計画の理解と記述方法	部分実習と責任実習の違い			
10	部分実習に備えて(1)	部分実習指導案作成のポイント・環境構成図等			
11	部分実習に備えて(2)	指導案の作成の実際			
12	部分実習に備えて(3)	指導案の基、模擬保育・振り返りと課題			
13	責任実習に備えて(4)	模擬保育・振り返りと課題			
14	責任実習に備えて(5)	模擬保育・振り返りと課題			
15	まとめ	振り返り、グループディスカッションによる自己課題の抽出			
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務 他				

科目名	保育実習Ⅱ(保育所)				
担当教員	外立 明子/片桐 友紀/木村 直子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	90
授業概要、目的、授業の進め方	「保育実習Ⅰ(保育所)」での学びを踏まえて、保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を様々な実践を通して総合的に学び、指導計画の理解や様々な指導案作成、記録に基づく省察等のかかわりにおいてより良い環境構成のあり様を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする				
学習目標(到達目標)	保育所の保育を実践し、保育士として適切な保育を行うための必要な資質・能力・技術を習得する。子どもをもつ家庭の福祉に対する理解を深め、子育てを支援するための能力を養				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「保育所保育指針」厚生労働省、フレーベル館				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
2	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
3	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
4	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
5	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
6	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
7	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
8	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
9	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
10	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
11	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
12	各クラスの担当保育士の指示に従い、実習する。	記録に基づく省察・自己評価をする			
13					
14					
15					
16					
17					
18					
	評価方法・成績評価基準	準備学習の具体的な内容			
	前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。	実習に必要な名札、教材を準備してから挑む			
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務 他				

科目名 保育実習事後指導Ⅱ(保育所)					
担当教員	片山 いおり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習Ⅱでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学習目標・課題を明確化する。本スクーリングは保育実習Ⅱを実施した後に受講する。				
学習目標(到達目標)	保育実習Ⅱでの総括・評価を行うとともに、保育内容や方法、専門知識を深め、新たな目標・課題を明確にする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。青木久子『子どもに生きる』萌文書林				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	保育実習による総合的な学び(1)	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解			
2	保育実習による総合的な学び(2)	子どもの保育と保護者支援			
3	保育実習による総合的な学び(3)	保育所施設の特徴			
4	保育実践力の育成(1)	子どもの状態に応じた適切なかかわり			
5	保育実践力の育成(2)	保育の表現技術の応用			
6	保育実践力の育成(3)	特別な配慮を必要とする子どもへの保育の実際			
7	実習施設における指導(1)	保育士が果たす役割の理解			
8	実習施設における指導(2)	利用する子どもの特徴の理解とかかわりの検討			
9	保育実習からの学びと課題(1)	子どもの姿・保育者の仕事			
10	保育実習からの学びと課題(2)	基本的側面・事実の記録・考察の深まりから			
11	保育実習からの学びと課題(3)	子育て支援・延長保育・一時保育等			
12	事後指導における実習の総括と評価(1)	実習の総括と自己評価			
13	事後指導における実習の総括と評価(2)	保育現場に求められるもの 生活に関する技術について			
14	事後指導における実習の総括と評価(3)	保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理			
15	事後指導における実習の総括と評価(4)	保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理及び発表			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		保育実習を振り返り、反省点をあらかじめ見つける			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他			

科目名 保育実習事前指導Ⅲ(施設)					
担当教員	片桐 友紀		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。 保育演習を通して、保育場面のなかでの留意すべき事柄を確認する。				
学習目標(到達目標)	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。駒井美智子『施設実習ガイド—保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	施設の概要と学習態度について	・保育実習授業の時期及び準備等〔実習の手引き〕			
2	第1章 福祉施設実習とは	①実習の意義 ②実習の目的 ③実習の理解			
3	福祉施設実習とは・	④福祉施設の子どもたち・⑤福祉施設保育士の役割⑥専門職とは			
4	福祉施設実習への事前学習	①子どもに対する態度・行動・②施設の職員に対する態度・行動 ③プライバシーの厳守 ④電話の基本マナーと実際の流れ			
5	福祉施設実習への事前学習	・⑤実習事前訪問⑥実習計画⑦基本的な生活習慣			
6	保育士と権利保障、ソーシャルワーク	①家庭の権利保障②・ソーシャルワークとは			
7	第4 施設別の実習内容	③実習記録の意味 ④実習日誌の書き方			
8	施設別の実習の内容	①乳児院の実習 ②児童養護施設の実習 ③母子生活支援での実習④児童自立支援施設での実習			
9	施設別の実習の内容・⑤児童相談所での実習⑥知的障がい施設での実習	⑦視覚・聴覚施設での実習			
10	施設別の実習の内容	⑧肢体不自由児施設での実習⑨重症心身障がい施設での実習⑩情緒障がい施設での実習			
11	—部分実習・責任実習への対応—				
12	第5章 児童福祉施設実習事後の振り返り	保育力とは何かを学習する。幼児文化教材を実践する。(ペープサート・絵本等)			
13	施設実習に行く心構えについて	目標・目的の確認①			
14	施設実習に行く心構えについて	目標・目的の確認②			
15	まとめ 施設実習に行く前の準備確認	意欲のありかたについて確認。			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	児童養護施設 施設長				

科目名		保育実習Ⅲ			
担当教員	外立 明子/片桐 友紀/木村 直子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	90
授業概要、目的、授業の進め方	目標：児童福祉施設(保育所以外)の役割やきのうについて実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。保育士としての自己の課題を明確にする。				
学習目標(到達目標)	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。駒井美智子『施設実習ガイド—保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
2	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
3	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
4	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
5	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
6	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
7	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
8	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
9	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
10	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
11	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
12	指導担当保育士の指示に従い、実習する。		記録に基づく省察・自己評価をする		
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。			過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う		
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他			

科目名	保育実習事後指導Ⅲ(施設)				
担当教員	片桐 友紀		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	保育実習Ⅲでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学修目標・課題を明確化する。 1. 保育実習Ⅲで生じた疑問点を解消する。 2. 保育実習Ⅲの反省と自己課題を明確にする。 3. 利用者への理解と援助技術について理解する。 4. 保育者論について学ぶ。				
学習目標(到達目標)	保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書 関口はつ江、他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。参考文献 河邊貴子、他『保育・教育実習 フィールドで遊ぼう』同文書院。鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。久富陽子『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林。				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕の反省と課題		保育実習の時期及び準備等		
2	保育所実習Ⅲの目的 福祉施設実習の意義・福祉施設実習の意義の確認		どうして実習が必要なのか。		
3	福祉施設実習の保育士の役割・福祉施設の専門職について		一日の流れの違い・共通点		
4	福祉施設実習の実習生の立場と心構えについて		保育者に望まれる資質とは-ワークシートを通して-		
5	事前の施設訪問・施設見学について・実習計画		施設実習の必要性・作成のポイント		
6	実習期間中の流れ・観察実習の内容		-ワークシートを通して- 形式と内容・記録の取り方		
7	参加実習の内容・指導実習の内容・記録の意味の確認		実践に備えて、手書きに慣れる		
8	実習日誌の書き方・実習施設での問題点と課題		実習日誌の必要性・作成のポイント		
9	施設別の実習の内容と問題点と課題(各自)①		保育者の機能について		
10	施設別の実習の内容と問題点と課題(各自)②		保育者の役割について		
11	施設別の実習の内容と問題点と課題(各自)③		子どもと利用者との関わりと職員の間わりについて		
12	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①(各自)・・		観察実習の課題		
13	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①(各自)・・		部分実習の課題		
14	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①(各自・発表)・・		保育者としての「良いモデルとは」受容と傾聴		
15	施設別の実習の内容と問題点と課題(各自)まとめ		今後の問題点と課題についてまとめる。		
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。		過去の実習、学習内容を振り返り、実習への準備を行う			
実務経験教員の経歴		児童養護施設 施設長			

科目名	教育実習指導(初等) I				
担当教員	中村 昭子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	<p>教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。</p>				
学習目標(到達目標)	<p>本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>教科書『教育実習(初等)の手引き』。参考文献 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。花篤貴、他『造形表現実技編』三晃書房</p>				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	講義概要 教育実習の意味		実習に向けての自己課題		
2	子ども理解と援助・支援技術の理解		教育環境と子どもの実態		
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解				
4	指導案		記入に必要な事項		
5	子どもの活動と教師の援助、支援				
6	指導案		一枚の中の関連		
7	指導案の作成		題材、活動内容等の記入		
8	指導案の作成		援助、支援等の工夫		
9	模擬保育		授業の実施 その1		
10	模擬保育		授業の実施 その2		
11	模擬保育		授業の実施 その3		
12	子ども理解		実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1		
13	子ども理解		実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2		
14	まとめ		目指す授業と自己課題の再設定		
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>大学で習得した知識や理論を振り返り、実習について必要な知識を得られるようにする。</p>		
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他			

科目名	教育実習(初等) I				
担当教員	外立 明子/片桐 友紀/木村 直子	実務授業の有無	○		
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	80
授業概要、目的、授業の進め方	<p>これまで学習してきた事を実践の場に適応しながら、さらに新しい学習課題を見出す。 ・子どもとの触れ合いを通して、こどもへの理解を深める ・望ましい人間関係(保育者同士、保育者と保護者の関係など)のあり方を学ぶ。実習期間: 12日間</p>				
学習目標(到達目標)	<p>配属された実習園のカリキュラムに従う 12日間の実習を通して、本学で学習した理論および実技の内容を有機的に統合し、現場での実践的な能力を身につける。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	幼稚園教育要領				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
2	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
3	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
4	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
5	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
6	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
7	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
8	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
9	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
10	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
11	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
12	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら(報告・連絡・相談)、積極的に取り組む		
13					
14					
15					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>学んできたことを生かせるよう、教材などを準備しておく</p>		
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他			

科目名		教育実習指導(初等)Ⅱ			
担当教員	中村 昭子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導の在り方(環境構成や教師の援助)についての学修を演習を通して一層深めていく。また、保育者に求められる専門的な知識の定着とともに、幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げ、専門性の向上を図る。				
学習目標(到達目標)	実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京福祉大学『教育実習(初等)の手引き』。文部科学省『幼稚園教育要領解説』(平成20年10月)フレーベル館。参考文献 福本俊監修『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版。関口はつ江他『保育実習ハンドブック』大学図書出版				
	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	幼稚園教育実習の感想及び課題等	実習日誌や指導案の書き方等についての課題を整理する。			
2	実習体験を振り返る。	『実習の手引き』を参考に、幼稚園実習の基礎・基本についての要点をまとめる			
3	幼小の連携について	考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる。			
4	幼児教育をめぐる問題(少子化、核家族化、情報化、国際化、学歴社会等)について	幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する。			
5	「環境を通して行う教育」の意義について	幼児の主体性を保障した保育はどのように展開するのかをまとめる。(計画の作成、保育実践、反省・評価)			
6	3歳児～5歳児について、	年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる。(事例研究)			
7	実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題	幼児の実態の把握の仕方、指導のねらいや内容の設定の仕方等について、教科書や参考文献等を読み、理解を深める			
8	保育者(実習生)の役割や留意点	部分実習指導案と一日実習(責任実習指導案)違いと作成上の留意点をまとめる。			
9	模擬保育(一日)指導案を作成	対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、一斉に行う活動検討し決定する。			
10	模擬保育(一日)指導案の作成と教材研究①	一日指導案の様式は『教育実習(初等)の手引き』掲載のものを使用する。			
11	模擬保育(一日)指導案の作成と教材研究②	一日指導案の様式は『教育実習(初等)の手引き』掲載のものを使用する。			
12	模擬保育(一日)指導案について検討会	(グループ又は個々に科目担当教員も参加)			
13	模擬保育(一日)指導案の改善と教材研究③	(完成させた指導案と教材研究の結果をまとめて提出する)			
14	指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について	『省察』『幼稚園幼児指導要録』について調べ、指導要録の意義や作成の仕方について学修する。			
15	保育者としての専門性をより向上させるために	今後力をいれて取り組みたいことをまとめる			
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		準備学習の具体的な内容			
前期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期:筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%		今までの実習を振り返り、必要な教材を準備しておく			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	公立保育園園長として7年勤務 他				

科目名	教育実習(初等)Ⅱ				
担当教員	中村 昭子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育幼稚園科	対象学年	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形態	対面と授業の併用	時間数	80
授業概要、目的、授業の進め方	<p>これまで学習してきた事を実践の場に適応しながら、さらに新しい学習課題を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの触れ合いを通して、こどもへの理解を深める ・望ましい人間関係(保育者同士、保育者と保護者の関係など)のあり方を学ぶ。実習期間：12日間 				
学習目標(到達目標)	<p>配属された実習園のカリキュラムに従う 12日間の実習を通して、本学で学習した理論および実技の内容を有機的に統合し、現場での実践的な能力を身につける。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	幼稚園教育要領				
	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
2	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
3	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
4	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
5	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
6	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
7	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
8	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
9	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
10	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
11	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
12	各園の担当教諭に従って実習を進める		実習中は実習園の指導教員のもと、健康管理に留意し、本学教員とも適宜連絡を取りながら積極的に取り組む		
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			準備学習の具体的な内容		
<p>前期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10% 後期：筆記試験50%、実技試験40%、学習意欲10%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(39点以下)とする。</p>			<p>実習中に使う絵本などの教材を準備して実習に挑む</p>		
実務経験教員の経歴		公立保育園園長として7年勤務 他			